

第5章 ソフト面でのバリアフリー（心のバリアフリー）

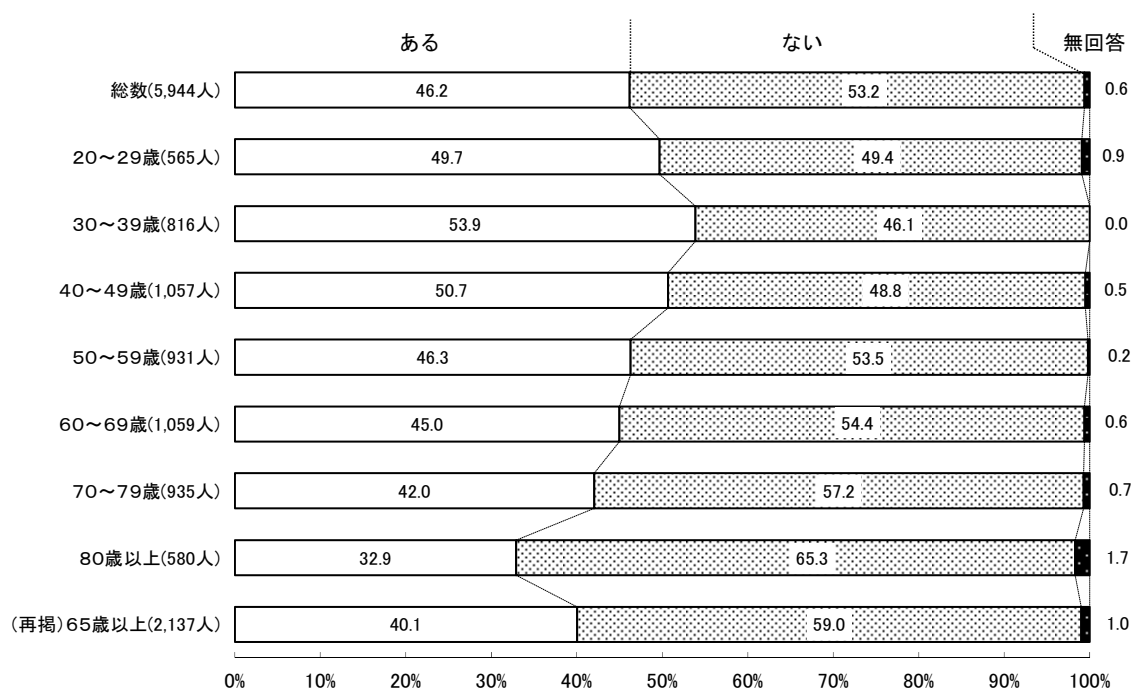
1 外出時に困っている人に手助けをした経験

(1) 外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無一年齢階級別

外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりしたことが「ある」人は、4割超

調査基準日（平成28年10月12日）から過去1年くらいの間に、外出の際、高齢者や障害のある方、妊産婦、乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがあるかを聞いたところ、「ある」人の割合は46.2%、「ない」人は53.2%となっている。（図Ⅱ-5-1）

図Ⅱ-5-1 外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無一年齢階級別



(2) 困っている人を見かけたときに自分がとった行動

一性・年齢階級別、平成23年度調査との比較

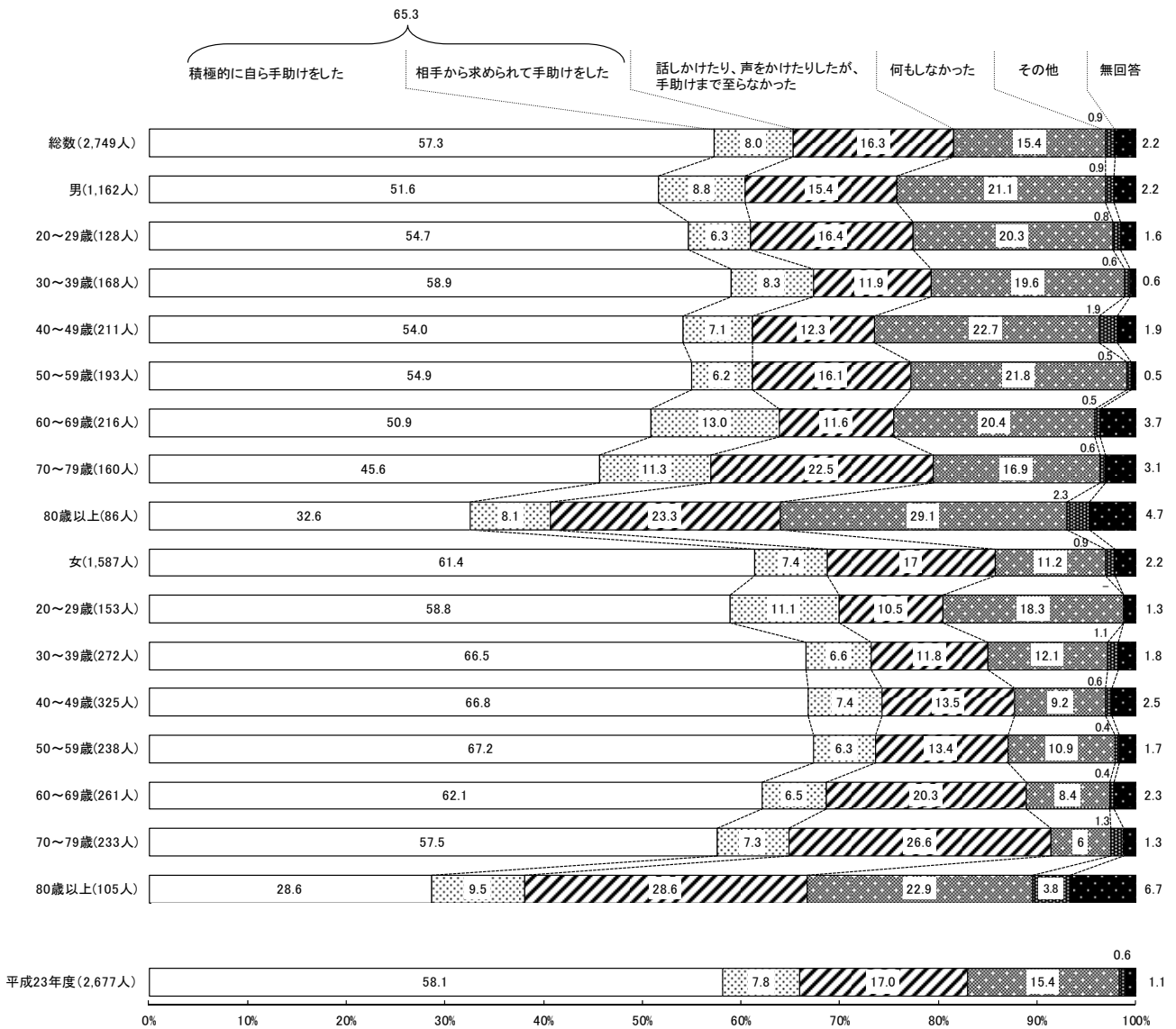
「積極的に自ら手助けをした」は、5割超

過去1年くらいの中に、外出の際、高齢者や障害のある方、妊産婦、乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがある人(2,749人)に、その時どのような行動をとったかを聞いたところ、「積極的に自ら手助けをした」人の割合は57.3%で、5割を超えている。また、「積極的に自ら手助けをした」人(57.3%)と「相手から求められて手助けをした」人(8.0%)を合わせた割合は、65.3%となっている。(図Ⅱ-5-2)

性別でみると、「積極的に自ら手助けをした」人の割合は、男性は51.6%、女性は61.4%で、女性の方が9.8ポイント高くなっている。(図Ⅱ-5-2)

図Ⅱ-5-2 困っている人を見かけたときに自分がとった行動

一性・年齢階級別、平成23年度調査との比較

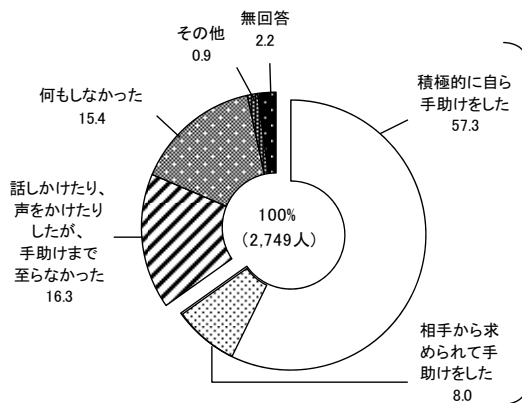


(3) 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕

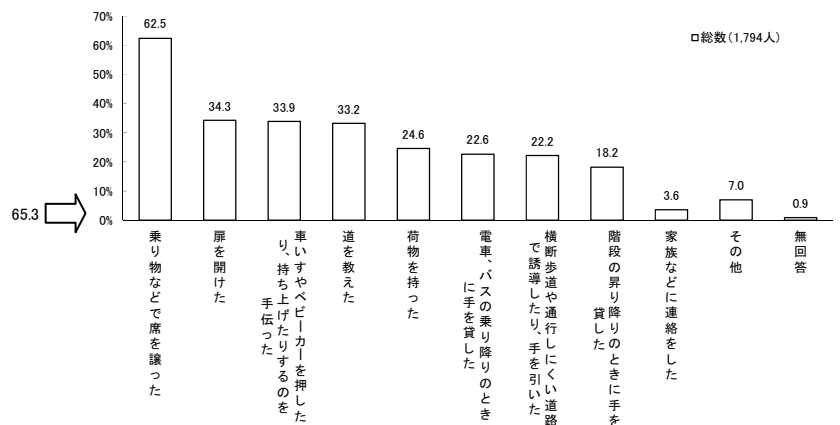
「乗り物などで席を譲った」の割合が、6割

過去1年くらいの中に、外出の際、高齢者や障害のある方、妊産婦、乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがある人(2,749人)のうち、「積極的に自ら手助けをした人(57.3%、1,574人)」と「相手から求められて手助けをした人(8.0%、220人)」に、どのような手助けを行ったか聞いたところ、「乗り物などで席を譲った」の割合が62.5%で最も高く、次いで「扉を開けた」が34.3%、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った」33.9%、「道を教えた」33.2%となっている。(図Ⅱ-5-3、図Ⅱ-5-4)

図Ⅱ-5-3 外出先で困っている人を見かけたときの行動



図Ⅱ-5-4 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕



注) 「その他」の意見(計128件)としてあげられた主なものは、以下のとおりである。
 なお、1人の回答に複数の内容が含まれている場合は、内容ごとに集計している。

- ・目的地まで手を貸し、案内した(15件)
- ・救急車、警察を呼んだ。係員に知らせた(15件)
- ・タクシーを止めるのを手伝った(10件)
- ・困っていることはないかなど、声掛けをした(9件)
- ・エレベーターの乗り降り、物を拾うなどの手助けをした(9件)
- ・転倒した人を起こしたり、介助した(6件)
- ・買い物の手助けをした(5件)
- ・自転車が転倒したのを起こした(5件)

ア 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕

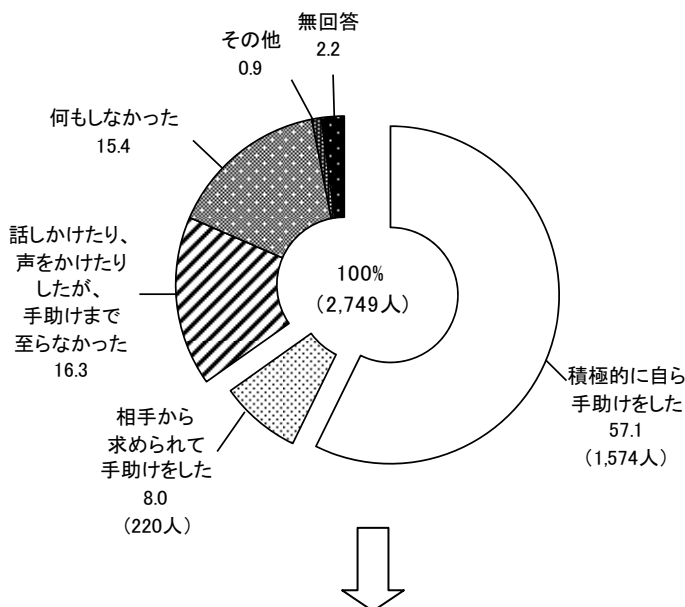
－外出先で困っている人を見かけたときの行動別

相手から求められて手助けをした人では、「道を教えた」の割合が最も高く、5割

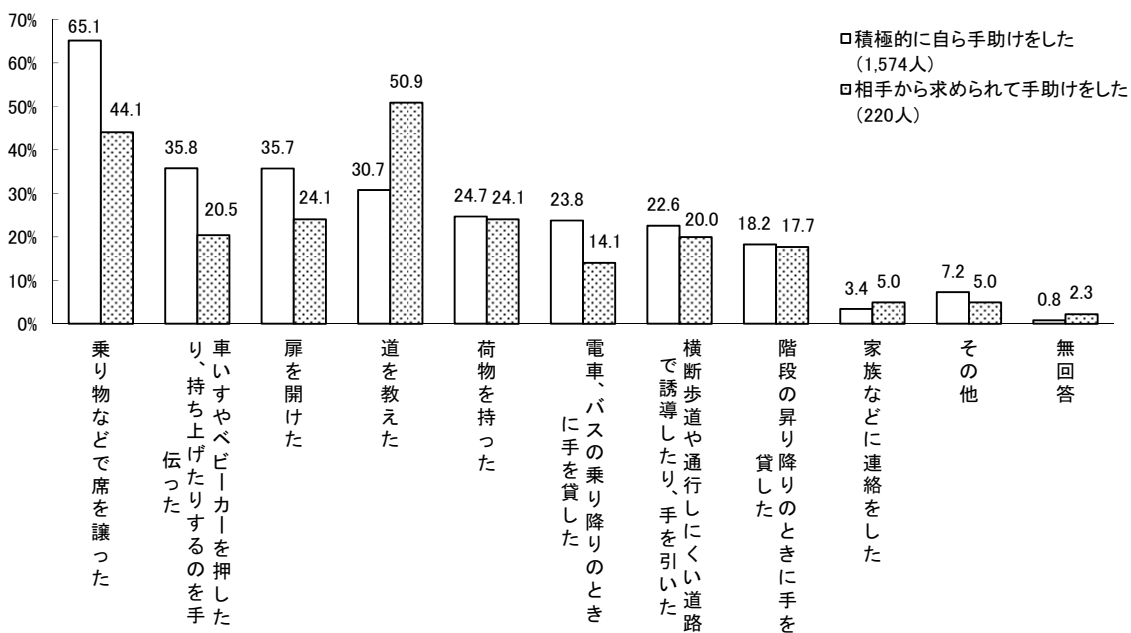
困っている人にした手助けの内容を、積極的に自ら手助けをした人と相手から求められて手助けをした人に分けてみると、積極的に自ら手助けをした人では、「乗り物などで席を譲った」の割合が65.1%で最も高く、相手から求められて手助けをした人（44.1%）に比べて、21.0ポイント高くなっている。

一方、相手から求められて手助けをした人では、「道を教えた」の割合が50.9%で最も高く、積極的に自ら手助けをした人（30.7%）に比べて、20.2ポイント高くなっている（図Ⅱ-5-5、図Ⅱ-5-6）

図Ⅱ-5-5 外出先で困っている人を見かけたときの行動



図Ⅱ-5-6 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕



イ 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕－性・年齢階級別

男女ともに「乗り物などで席を譲った」が最も高く、6割

手助けした内容を性別で見ると、男女とも「乗り物などで席を譲った」がそれぞれ 61.4%、63.3%で最も高く、6割となっている。次いで、男性は、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った」が 36.2%、女性は、「扉を開けた」が 35.5%となっている。

「荷物を持った」の割合は、男性は 29.2%、女性は 21.6%で、男性が 7.6ポイント高くなっている。(表Ⅱ-5-1)

表Ⅱ-5-1 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕－性・年齢階級別

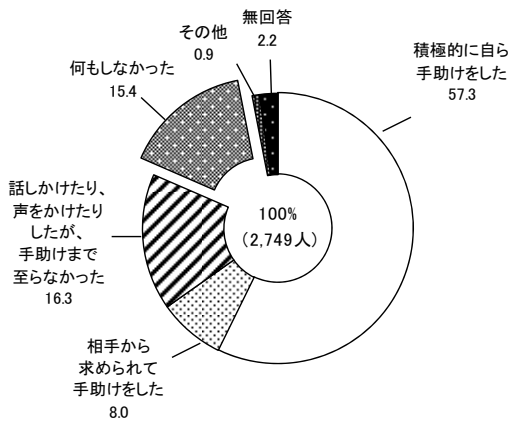
| | 総数 | 荷物を持った | 横断歩道や通行しにくい道路で誘導したり、手を引いた | 階段の昇り降りるときに手を貸した | 電車、バスの乗り降りるときに手を貸した | 車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った | 乗り物などで席を譲った | 道を教えた | 扉を開けた | 家族等に連絡をした | その他 | 無回答 |
|-----------|------------------|-------------|---------------------------|------------------|---------------------|-------------------------------|-------------|-------|-------------|-----------|------|-----|
| 総数 | 100.0 (1,794) | 24.6 | 22.2 | 18.2 | 22.6 | 33.9 | 62.5 | 33.2 | 34.3 | 3.6 | 7.0 | 0.9 |
| 男 | 100.0 (702) | <u>29.2</u> | 21.1 | 21.4 | 22.6 | <u>36.2</u> | <u>61.4</u> | 33.5 | 32.3 | 3.8 | 6.7 | 1.4 |
| 20～29歳 | 100.0 (78) | 24.4 | 10.3 | 17.9 | 12.8 | 20.5 | 66.7 | 37.2 | 26.9 | 1.3 | 5.1 | 1.3 |
| 30～39歳 | 100.0 (113) | 18.6 | 10.6 | 11.5 | 14.2 | 37.2 | 70.8 | 35.4 | 31.9 | 2.7 | 5.3 | 2.7 |
| 40～49歳 | 100.0 (129) | 20.9 | 10.1 | 21.7 | 22.5 | 42.6 | 62.8 | 30.2 | 39.5 | 3.1 | 4.7 | 1.6 |
| 50～59歳 | 100.0 (118) | 31.4 | 26.3 | 22.9 | 28.8 | 34.7 | 58.5 | 25.4 | 30.5 | 2.5 | 4.2 | - |
| 60～69歳 | 100.0 (138) | 31.9 | 29.0 | 24.6 | 22.5 | 37.0 | 63.0 | 36.2 | 34.8 | 4.3 | 8.7 | 2.2 |
| 70～79歳 | 100.0 (91) | 41.8 | 31.9 | 24.2 | 31.9 | 39.6 | 51.6 | 36.3 | 28.6 | 6.6 | 9.9 | 1.1 |
| 80歳以上 | 100.0 (35) | 54.3 | 42.9 | 34.3 | 28.6 | 37.1 | 42.9 | 40.0 | 25.7 | 11.4 | 14.3 | - |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (218) | 38.5 | 33.0 | 26.6 | 26.6 | 38.1 | 54.6 | 36.7 | 30.3 | 6.0 | 10.1 | 1.8 |
| 女 | 100.0 (1,092) | <u>21.6</u> | 23.0 | 16.1 | 22.5 | 32.4 | <u>63.3</u> | 33.1 | <u>35.5</u> | 3.4 | 7.1 | 0.6 |
| 20～29歳 | 100.0 (107) | 21.5 | 12.1 | 8.4 | 15.0 | 23.4 | 70.1 | 40.2 | 38.3 | 2.8 | 3.7 | 2.8 |
| 30～39歳 | 100.0 (199) | 17.6 | 11.1 | 14.1 | 14.1 | 38.7 | 68.3 | 38.2 | 45.2 | 1.5 | 4.5 | 0.5 |
| 40～49歳 | 100.0 (241) | 12.4 | 19.9 | 12.0 | 16.6 | 36.5 | 64.3 | 30.7 | 36.5 | 2.5 | 7.5 | - |
| 50～59歳 | 100.0 (175) | 19.4 | 24.0 | 16.0 | 26.3 | 38.9 | 66.3 | 24.6 | 34.9 | - | 10.3 | - |
| 60～69歳 | 100.0 (179) | 26.8 | 30.7 | 19.6 | 27.4 | 32.4 | 62.6 | 29.6 | 33.0 | 2.8 | 7.8 | 0.6 |
| 70～79歳 | 100.0 (151) | 34.4 | 36.4 | 25.8 | 37.7 | 22.5 | 57.6 | 35.8 | 30.5 | 12.6 | 6.6 | 0.7 |
| 80歳以上 | 100.0 (40) | 35.0 | 40.0 | 20.0 | 25.0 | 10.0 | 25.0 | 45.0 | 7.5 | 2.5 | 12.5 | 2.5 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (283) | 32.2 | 35.3 | 24.0 | 31.1 | 23.0 | 53.7 | 32.9 | 26.5 | 7.8 | 7.8 | 1.1 |

(4) 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由

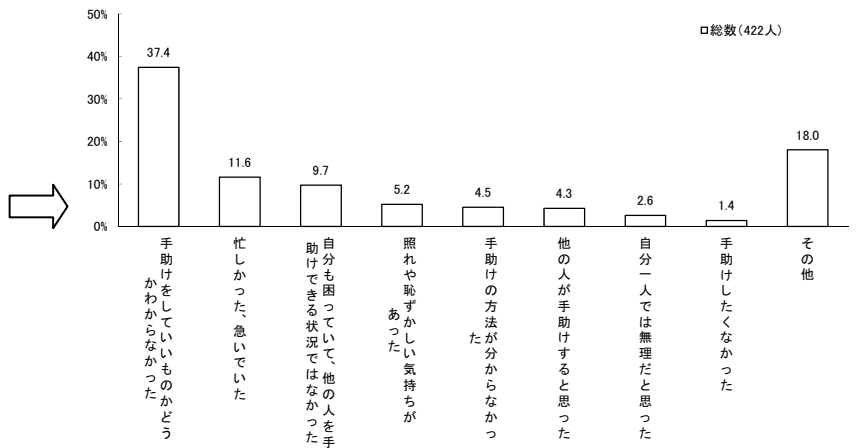
「手助けをしていいものかどうかわからなかった」の割合が3割超

過去1年くらいの間、外出の際、外出の際、高齢者や障害のある方、妊産婦、乳幼児を連れてきた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがある人(2,749人)のうち、「何もしなかった」人(15.4%、422人)に、何もしなかった理由を聞いたところ、「手助けをしていいものかどうかわからなかった」の割合が37.4%で最も高くなっている。(図Ⅱ-5-7、図Ⅱ-5-8)

図Ⅱ-5-7 外出先で困っている人を見かけたときの行動



図Ⅱ-5-8 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由



注) 「その他」の意見(計76件)としてあげられた主なものは、以下のとおりである。

- ・すでに他の人が手助けをしていた(19件)
- ・自分も病気や障害があり、手助けできなかった(13件)
- ・手助けの必要がなかった(10件)

ア 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由－性・年齢階級別

男女ともに「手助けをしていいものかどうかわからなかった」の割合が 3 割超

何もしなかった理由を性別にみると、男女ともに「手助けしていいものかどうかわからなかった」の割合が最も高く、男性は 39.6%、女性は 34.5%で、男性が 5.1 ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、65 歳以上では、男性は「手助けしていいものかどうかわからなかった」が 34.2%で最も高く、女性は「自分も困っていて、他の人を手助けできる状況ではなかった」が 32.7%で最も高くなっている。(表Ⅱ-5-2)

表Ⅱ-5-2 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由－性・年齢階級別

| | 総数 | 忙しかった、急いでいた | 自分も困っている状況ではなかった | 照れや恥ずかしい気持ちがあった | 他の人が手助けすると思った | 手助けの方法がわからなかった | 自分一人では無理だと思った | 手助けをしていいものかどうか | 手助けしたくなかった | その他 | 無回答 |
|-----------|----------------|-------------|------------------|-----------------|---------------|----------------|---------------|----------------|------------|------|------|
| 総数 | 100.0 (422) | 11.6 | 9.7 | 5.2 | 4.3 | 4.5 | 2.6 | 37.4 | 1.4 | 18.0 | 5.2 |
| 男 | 100.0 (245) | 12.7 | 7.3 | 6.1 | 5.3 | 4.5 | 2.4 | <u>39.6</u> | 1.6 | 16.7 | 3.7 |
| 20～29歳 | 100.0 (26) | 19.2 | - | - | - | 7.7 | - | 46.2 | 3.8 | 23.1 | - |
| 30～39歳 | 100.0 (33) | 6.1 | 3.0 | 9.1 | 6.1 | - | - | 60.6 | - | 15.2 | - |
| 40～49歳 | 100.0 (48) | 10.4 | 2.1 | 16.7 | 4.2 | 6.3 | - | 27.1 | 4.2 | 25.0 | 4.2 |
| 50～59歳 | 100.0 (42) | 16.7 | 4.8 | 4.8 | 14.3 | 2.4 | - | 40.5 | 2.4 | 9.5 | 4.8 |
| 60～69歳 | 100.0 (44) | 13.6 | 6.8 | 4.5 | 6.8 | 6.8 | 2.3 | 43.2 | - | 11.4 | 4.5 |
| 70～79歳 | 100.0 (27) | 18.5 | 14.8 | - | - | 3.7 | 3.7 | 48.1 | - | 7.4 | 3.7 |
| 80歳以上 | 100.0 (25) | 4.0 | 28.0 | - | - | 4.0 | 16.0 | 12.0 | - | 28.0 | 8.0 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (79) | 12.7 | 16.5 | 2.5 | 2.5 | 5.1 | 7.6 | <u>34.2</u> | - | 15.2 | 3.8 |
| 女 | 100.0 (177) | 10.2 | 13.0 | 4.0 | 2.8 | 4.5 | 2.8 | <u>34.5</u> | 1.1 | 19.8 | 7.3 |
| 20～29歳 | 100.0 (28) | 7.1 | 3.6 | - | - | 7.1 | - | 60.7 | - | 3.6 | 17.9 |
| 30～39歳 | 100.0 (33) | 21.2 | 9.1 | 9.1 | 3.0 | - | - | 36.4 | - | 15.2 | 6.1 |
| 40～49歳 | 100.0 (30) | 13.3 | 3.3 | 3.3 | 3.3 | 3.3 | - | 33.3 | 3.3 | 26.7 | 10.0 |
| 50～59歳 | 100.0 (26) | 15.4 | 7.7 | - | 3.8 | 11.5 | 3.8 | 26.9 | - | 19.2 | 11.5 |
| 60～69歳 | 100.0 (22) | 4.5 | 4.5 | 9.1 | - | 4.5 | - | 45.5 | - | 31.8 | - |
| 70～79歳 | 100.0 (14) | - | 35.7 | 7.1 | 14.3 | - | - | 21.4 | 7.1 | 14.3 | - |
| 80歳以上 | 100.0 (24) | - | 41.7 | - | - | 4.2 | 16.7 | 8.3 | - | 29.2 | - |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (49) | 2.0 | <u>32.7</u> | 4.1 | 4.1 | 4.1 | 8.2 | 14.3 | 2.0 | 28.6 | - |

2 外出先で誰かの手助けを必要と感じた経験

(1) 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無一性・年齢階級別

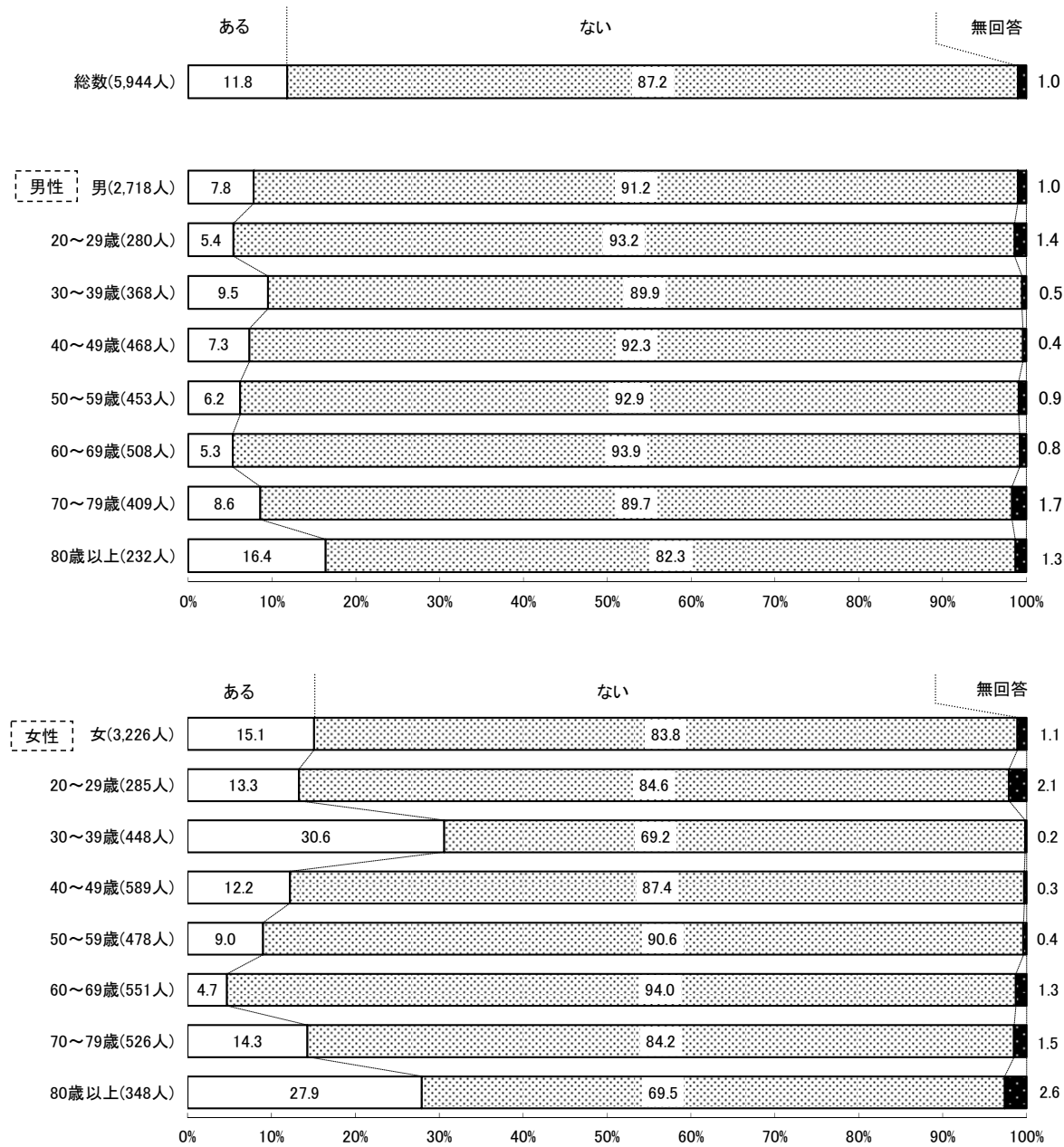
外出時に誰かの手助けを必要と感じたことが「ある」人の割合は、1割

過去1年くらいの間、外出の際、誰かの手助けを必要としたことがあるかを聞いたところ、「ある」人の割合は11.8%で、1割となっている。

性別でみると、「ある」の割合は、男性は7.8%、女性は15.1%で、女性の方が7.3ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、30代では、「ある」の割合が、男性9.5%、女性30.6%で、女性の方が21.1ポイント高くなっている。(図Ⅱ-5-9)

図Ⅱ-5-9 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無一性・年齢階級別

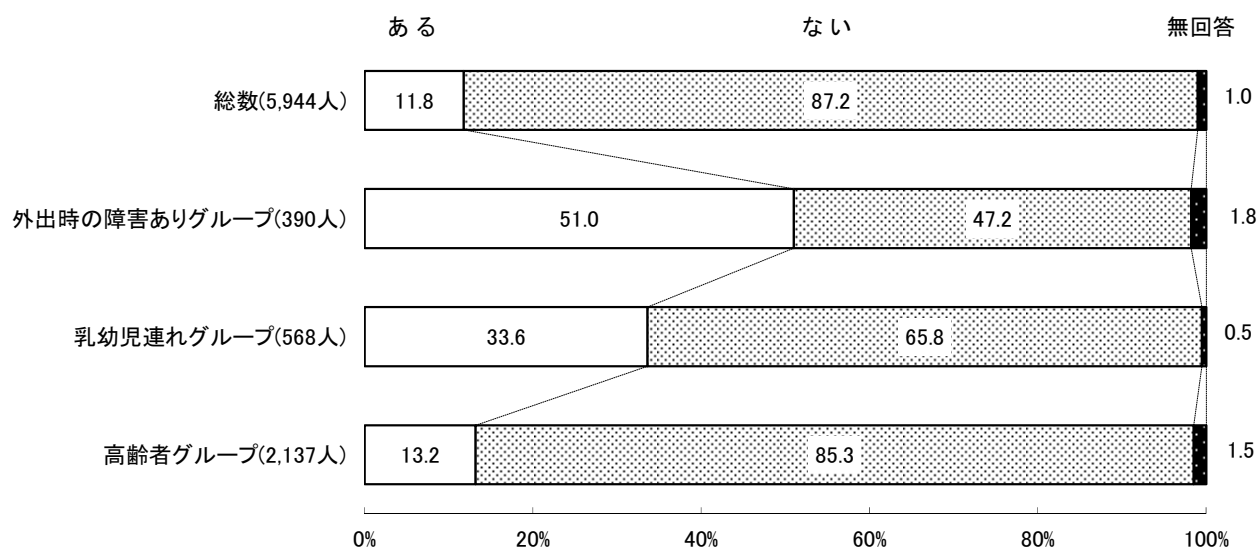


ア 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－外出時グループ別

「ある」の割合は、外出時の障害ありグループでは、5割

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループは、「ある」の割合が51.0%で、総数（11.8%）に比べて39.2ポイント高くなっている。
 (図Ⅱ-5-10)

図Ⅱ-5-10 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－外出時グループ別



イ 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無

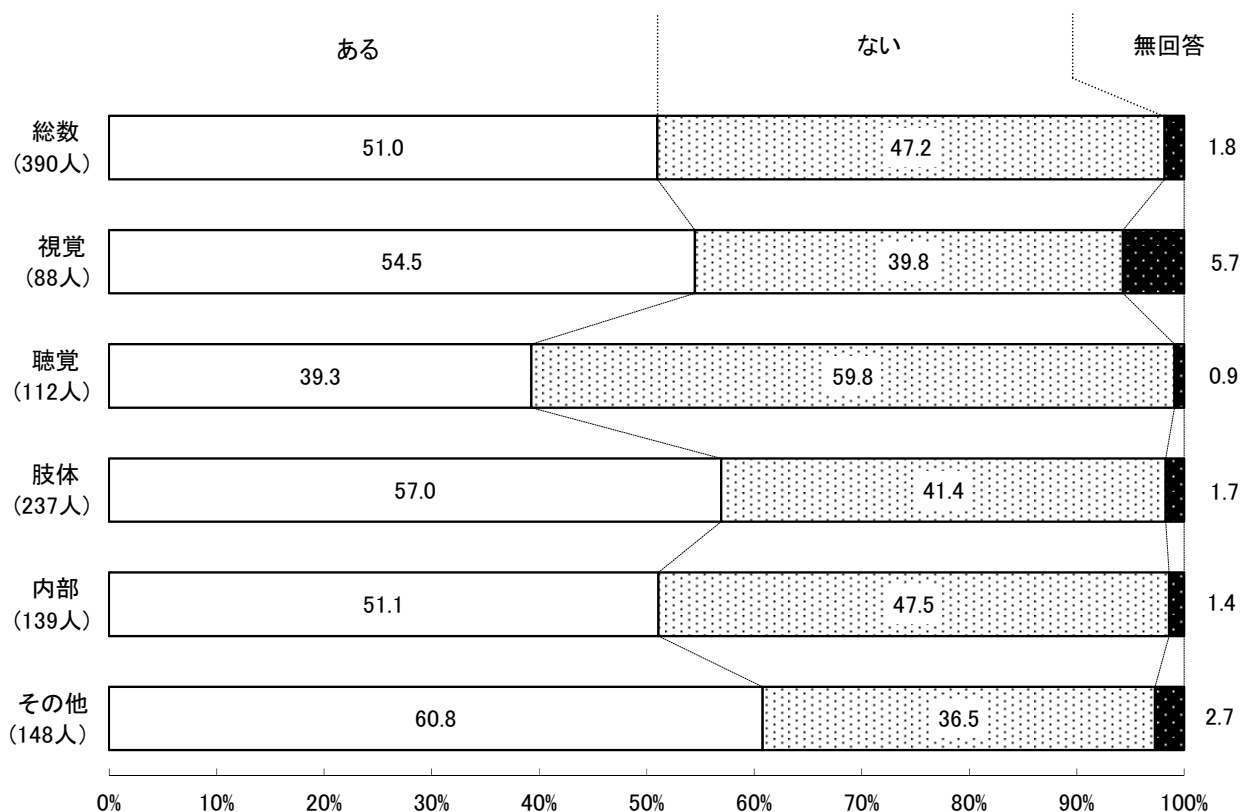
－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

すべての障害（聴覚を除く。）で、「ある」の割合は、5割以上

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を外出時の障害別にみると、「ある」の割合は、聴覚に障害がある人を除き、いずれも5割以上となっている。（図Ⅱ-5-11）

図Ⅱ-5-11 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別



注) 「総数（外出時に何らかの障害がある）」、「視覚」、「聴覚」、「肢体」、「内部」、「その他」については、P89 の表Ⅱ-1-1 を参照。

ウ 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無

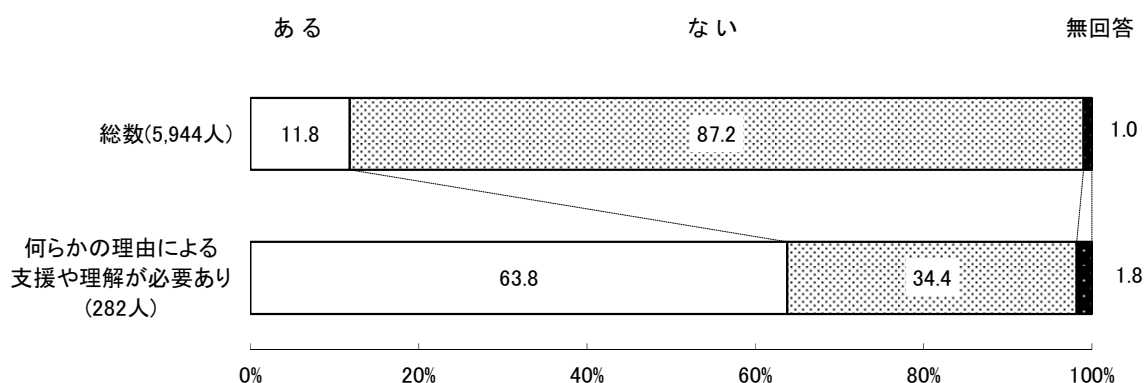
－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「ある」の割合が、総数に比べて高く、6割

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「ある」の割合が63.8%で、総数に比べて高く、6割となっている。(図Ⅱ-5-12)

図Ⅱ-5-12 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別



(2) 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

一性・年齢階級別

「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が最も高い

過去1年間くらいの際に、外出の際、誰かの手助けを必要としたことがある人（700人）に、どのような手助けが必要だったか聞いたところ、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が39.6%で最も高く、次いで、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」が30.6%となっている。

性・年齢階級別にみると、30代の女性では、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった」の割合が48.9%で最も高く、次いで、「乗り物などで席を譲ってほしかった」が46.7%となっている。また、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」の割合は、65歳以上では、男性は29.7%、女性は49.7%で、女性の方が20.0ポイント高くなっている。（表Ⅱ-5-3）

表Ⅱ-5-3 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

一性・年齢階級別

| | 総数 | 荷物を持つのを手伝ってほしかった | 横断歩道や通行しにくい道路で、誘導したり、手を引いたりしてほしかった | 階段の昇り降りのときに手助けがほしかった | 電車、バスの乗り降りのときに手助けがほしかった | 車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった | 乗り物などで席を譲ってほしかった | 道を教えてほしかった | 扉を開けてほしかった | 家族等に連絡してほしかった | その他 | 無回答 |
|-----------|----------------|------------------|------------------------------------|----------------------|-------------------------|------------------------------|------------------|------------|------------|---------------|------|-----|
| 総数 | 100.0 (700) | <u>30.6</u> | 12.0 | 24.7 | 20.4 | 21.4 | <u>39.6</u> | 13.9 | 16.9 | 3.1 | 8.9 | 2.7 |
| 男 | 100.0 (212) | 25.5 | 16.0 | 26.4 | 19.8 | 13.7 | 37.7 | 17.9 | 13.7 | 4.7 | 9.9 | 4.2 |
| 20～29歳 | 100.0 (15) | 13.3 | - | 13.3 | 6.7 | 13.3 | 33.3 | 13.3 | 26.7 | - | 6.7 | - |
| 30～39歳 | 100.0 (35) | 17.1 | 5.7 | 11.4 | 20.0 | 22.9 | 31.4 | 20.0 | 14.3 | 2.9 | 5.7 | 2.9 |
| 40～49歳 | 100.0 (34) | 26.5 | 8.8 | 26.5 | 8.8 | 17.6 | 23.5 | 14.7 | 17.6 | 5.9 | 14.7 | 2.9 |
| 50～59歳 | 100.0 (28) | 35.7 | 14.3 | 35.7 | 32.1 | 17.9 | 35.7 | 32.1 | 21.4 | 3.6 | 7.1 | 7.1 |
| 60～69歳 | 100.0 (27) | 22.2 | 25.9 | 18.5 | 14.8 | 3.7 | 40.7 | 14.8 | 7.4 | 3.7 | 18.5 | 7.4 |
| 70～79歳 | 100.0 (35) | 28.6 | 20.0 | 28.6 | 14.3 | 5.7 | 51.4 | 20.0 | 8.6 | 2.9 | 2.9 | 5.7 |
| 80歳以上 | 100.0 (38) | 28.9 | 28.9 | 42.1 | 34.2 | 13.2 | 44.7 | 10.5 | 7.9 | 10.5 | 13.2 | 2.6 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (91) | <u>29.7</u> | 25.3 | 31.9 | 23.1 | 7.7 | 48.4 | 16.5 | 8.8 | 6.6 | 11.0 | 4.4 |
| 女 | 100.0 (488) | 32.8 | 10.2 | 24.0 | 20.7 | 24.8 | 40.4 | 12.1 | 18.2 | 2.5 | 8.4 | 2.0 |
| 20～29歳 | 100.0 (38) | 13.2 | 2.6 | 15.8 | 26.3 | 31.6 | 52.6 | 10.5 | 15.8 | - | - | 2.6 |
| 30～39歳 | 100.0 (137) | 19.0 | 2.9 | 20.4 | 16.8 | <u>48.9</u> | <u>46.7</u> | 10.2 | 30.7 | 2.2 | 4.4 | - |
| 40～49歳 | 100.0 (72) | 29.2 | 6.9 | 15.3 | 15.3 | 27.8 | 40.3 | 11.1 | 23.6 | 1.4 | 11.1 | 2.8 |
| 50～59歳 | 100.0 (43) | 23.3 | 14.0 | 18.6 | 11.6 | 4.7 | 25.6 | 18.6 | 7.0 | - | 20.9 | - |
| 60～69歳 | 100.0 (26) | 46.2 | - | 11.5 | 3.8 | 7.7 | 26.9 | 30.8 | - | 3.8 | 11.5 | 3.8 |
| 70～79歳 | 100.0 (75) | 50.7 | 12.0 | 22.7 | 21.3 | 4.0 | 30.7 | 14.7 | 8.0 | 4.0 | 12.0 | 4.0 |
| 80歳以上 | 100.0 (97) | 49.5 | 25.8 | 45.4 | 36.1 | 15.5 | 44.3 | 6.2 | 15.5 | 4.1 | 6.2 | 3.1 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (191) | <u>49.7</u> | 17.8 | 33.5 | 27.2 | 9.9 | 38.2 | 11.5 | 11.0 | 4.2 | 8.4 | 3.7 |

ア 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時グループ別

高齢者グループは、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」の割合が高く、4割

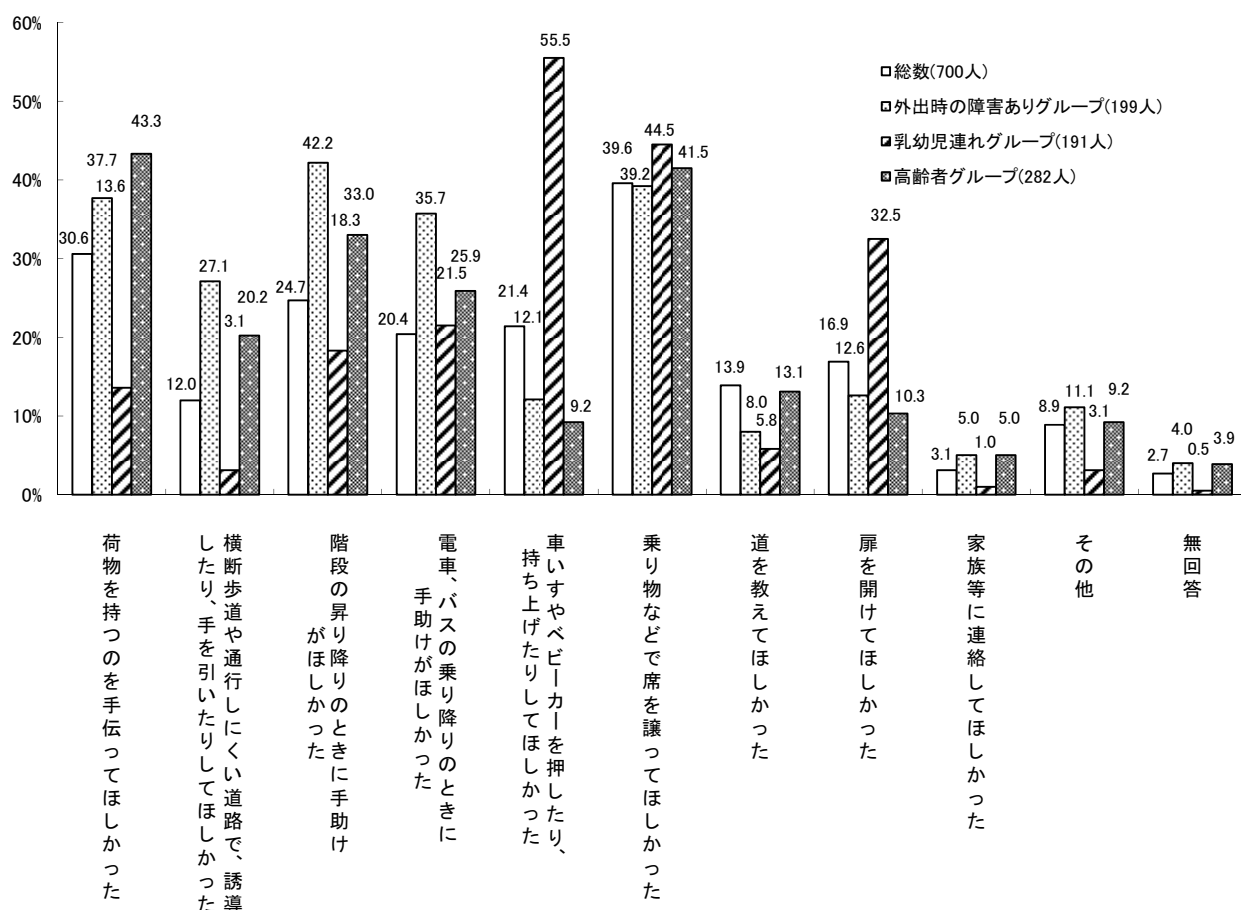
必要とした手助けの内容を外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループでは、「階段の昇り降りのときに手助けがほしかった」の割合が42.2%で最も高く、総数（24.7%）に比べて17.5ポイント高くなっている。

高齢者グループでは、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」の割合が43.3%で最も高く、総数（30.6%）と比べて12.7ポイント高くなっている。

乳幼児連れグループでは、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった」の割合が55.5%で最も高く、総数（21.4%）に比べて34.1ポイント高くなっている。（図Ⅱ-5-13）

図Ⅱ-5-13 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時グループ別



イ 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

すべての障害（視覚を除く。）で、「階段の昇り降りのおきに手助けがほしかった」の割合が最も高い

必要とした手助けの内容を外出時の障害の有無別にみると、視覚に障害がある人を除いたすべての障害で、「階段の昇り降りのおきに手助けがほしかった」の割合が最も高くなっている。

（表Ⅱ-5-4）

表Ⅱ-5-4 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

| | 総数 | 荷物を持つのを手伝ってほしかった | 誘導したり、手を引いたりしてほしかった | 横断歩道や通行しにくい道路で、 | 階段の昇り降りのときに手助けがほしかった | 電車、バスの乗り降りのときに手助けがほしかった | 車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった | 乗り物などで席を譲ってほしかった | 道を教えてほしかった | 扉を開けてほしかった | 家族等に連絡してほしかった | その他 | 無回答 |
|---------------|----------------|------------------|---------------------|-----------------|----------------------|-------------------------|------------------------------|------------------|------------|------------|---------------|-----|-----|
| 総数 | 100.0 (700) | 30.6 | 12.0 | 24.7 | 20.4 | 21.4 | 39.6 | 13.9 | 16.9 | 3.1 | 8.9 | 2.7 | |
| 外出時に何らかの障害がある | 100.0 (199) | 37.7 | 27.1 | 42.2 | 35.7 | 12.1 | 39.2 | 8.0 | 12.6 | 5.0 | 11.1 | 4.0 | |
| 視覚 | 100.0 (48) | 35.4 | 33.3 | 43.8 | 43.8 | 10.4 | 52.1 | 20.8 | 10.4 | 10.4 | 4.2 | 2.1 | |
| 聴覚 | 100.0 (44) | 43.2 | 29.5 | <u>56.8</u> | 45.5 | 11.4 | 52.3 | 13.6 | 18.2 | 11.4 | 9.1 | 2.3 | |
| 肢体 | 100.0 (135) | 40.0 | 27.4 | <u>45.9</u> | 38.5 | 17.0 | 38.5 | 5.9 | 14.8 | 6.7 | 10.4 | 5.2 | |
| 内部 | 100.0 (71) | 46.5 | 31.0 | <u>50.7</u> | 40.8 | 16.9 | 47.9 | 5.6 | 15.5 | 4.2 | 7.0 | 4.2 | |
| その他 | 100.0 (90) | 38.9 | 30.0 | <u>44.4</u> | 37.8 | 12.2 | 42.2 | 10.0 | 15.6 | 6.7 | 10.0 | 5.6 | |
| 外出時に障害がない | 100.0 (494) | 28.1 | 5.9 | 18.0 | 14.4 | 25.3 | 39.3 | 16.4 | 18.6 | 2.4 | 7.9 | 2.2 | |

ウ 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が最も高い

必要とした手助けの内容を外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が44.4%で最も高く、「階段の昇り降りの際に手助けがほしかった」が36.7%、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」が35.0%となっている。(表Ⅱ-5-5)

表Ⅱ-5-5 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

| | 総数 | 荷物を持つのを手伝ってほしかった | 横断歩道や通行しにくい道路で、誘導したり、手を引いたりしてほしかった | 階段の昇り降りのときに手助けがほしかった | 電車、バスの乗り降りのときに手助けがほしかった | 車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった | 乗り物などで席を譲ってほしかった | 道を教えてほしかった | 扉を開けてほしかった | 家族等に連絡してほしかった | その他 | 無回答 |
|----------------------------|--------------|------------------|------------------------------------|----------------------|-------------------------|------------------------------|------------------|------------|------------|---------------|------|-----|
| 総数 | 100.0 700 | 30.6 | 12.0 | 24.7 | 20.4 | 21.4 | 39.6 | 13.9 | 16.9 | 3.1 | 8.9 | 2.7 |
| 何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする | 100.0 180 | <u>35.0</u> | 25.6 | <u>36.7</u> | 30.6 | 17.2 | <u>44.4</u> | 11.7 | 17.8 | 5.0 | 13.9 | 3.3 |
| 何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要としない | 100.0 515 | 29.1 | 7.2 | 20.8 | 16.7 | 23.1 | 37.7 | 14.8 | 16.7 | 2.5 | 7.2 | 2.5 |

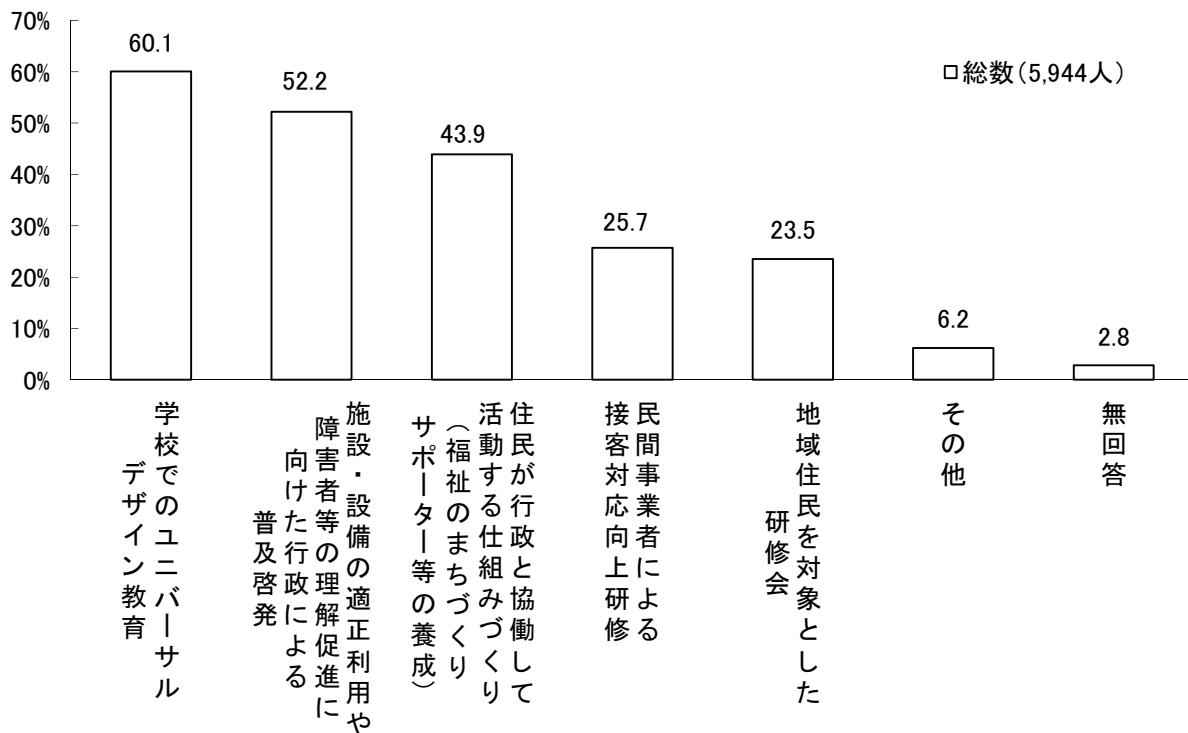
3 心のバリアフリーの実現のため、効果的だと思う取組

(1) 心のバリアフリーの実現のため、効果的だと思う取組〔複数回答〕

「学校でのユニバーサルデザイン教育」が最も高く、6割

心のバリアフリーの実現のため、効果的だと思う取組について聞いたところ、「学校でのユニバーサルデザイン教育」の割合が60.1%で最も高く、次いで「施設・設備の適正利用や障害者等の理解促進に向けた行政による普及啓発」が52.2%となっている。(図Ⅱ-5-14)

図Ⅱ-5-14 「心のバリアフリーに向けた取組の強化」の目指すべき将来像の実現のため、効果的だと思う取組〔複数回答〕



ア 心のバリアフリーの実現のため、効果的だと思う取組〔複数回答〕

—性・年齢階級別、地域別

80歳未満では、「学校でのユニバーサルデザイン教育」の割合が最も高い

心のバリアフリーの実現のため、効果的だと思う取組を年齢階級別にみると、20代～70代では、「学校でのユニバーサルデザイン教育」の割合が最も高くなっている（54.5%～67.5%）。

一方、80歳以上では、「施設・設備の適正利用や障害者等の理解促進に向けた行政による普及啓発」が46.4%で最も高く、次いで「住民が行政と協働して活動する仕組みづくり（福祉のまちづくりサポーター等の養成）」が43.6%となっている。（表Ⅱ-5-6）

表Ⅱ-5-6 「心のバリアフリーに向けた取組の強化」の目指すべき将来像の実現のため、効果的だと思う取組〔複数回答〕—性・年齢階級別、地域別

| | 総数 | 学校でのユニバーサルデザイン教育 | 地域住民を対象とした研修会 | 住民が行政と協働して活動する仕組みづくり（福祉のまちづくりサポーター等の養成） | 民間事業者による接客対応向上研修 | 障害者等の理解促進に向けた行政による普及啓発 | 施設・設備の適正利用や障害者等の理解促進に向けた | その他 | 無回答 |
|-------|------------------|------------------|---------------|---|------------------|------------------------|--------------------------|------|-----|
| 総数 | 100.0 (5,944) | 60.1 | 23.5 | 43.9 | 25.7 | 52.2 | 6.2 | 2.8 | |
| 性別 | 男 | 100.0 (2,718) | 57.9 | 22.8 | 42.9 | 23.1 | 50.3 | 6.6 | 2.5 |
| | 女 | 100.0 (3,226) | 61.9 | 24.0 | 44.7 | 27.8 | 53.8 | 5.9 | 3.0 |
| 年齢階級別 | 20～29歳 | 100.0 (565) | <u>57.3</u> | 14.0 | 37.3 | 30.6 | 48.8 | 3.4 | 1.8 |
| | 30～39歳 | 100.0 (816) | <u>67.5</u> | 15.9 | 37.9 | 32.0 | 48.8 | 4.2 | 0.6 |
| | 40～49歳 | 100.0 (1,057) | <u>64.7</u> | 17.9 | 39.2 | 28.9 | 53.1 | 5.7 | 0.9 |
| | 50～59歳 | 100.0 (931) | <u>63.5</u> | 24.3 | 46.8 | 27.3 | 57.3 | 4.5 | 1.0 |
| | 60～69歳 | 100.0 (1,059) | <u>63.7</u> | 27.8 | 51.0 | 22.6 | 56.7 | 6.0 | 2.9 |
| | 70～79歳 | 100.0 (935) | <u>54.5</u> | 31.6 | 47.7 | 19.5 | 49.7 | 7.1 | 5.0 |
| | 80歳以上 | 100.0 (580) | 40.7 | 31.4 | <u>43.6</u> | 18.8 | <u>46.4</u> | 14.7 | 9.1 |
| | (再掲)総数 65歳以上 | 100.0 (2,137) | 53.1 | 31.1 | 46.9 | 20.1 | 50.8 | 9.1 | 5.7 |
| 地域別 | 区部 | 100.0 (3,918) | 59.6 | 23.2 | 43.8 | 26.0 | 50.6 | 6.6 | 2.8 |
| | 区中央部 | 100.0 (378) | 60.3 | 28.3 | 46.6 | 29.1 | 51.6 | 6.1 | 2.6 |
| | 区南部 | 100.0 (444) | 61.9 | 19.4 | 43.9 | 23.0 | 49.1 | 8.8 | 1.1 |
| | 区西南部 | 100.0 (596) | 62.4 | 21.6 | 39.3 | 27.7 | 51.7 | 5.7 | 2.7 |
| | 区西部 | 100.0 (488) | 58.4 | 23.4 | 43.9 | 26.2 | 51.8 | 5.9 | 3.9 |
| | 区西北部 | 100.0 (783) | 63.5 | 23.2 | 45.6 | 27.2 | 52.1 | 6.0 | 2.0 |
| | 区東北部 | 100.0 (596) | 55.4 | 24.3 | 43.5 | 25.3 | 48.3 | 8.9 | 3.5 |
| | 区東部 | 100.0 (633) | 55.0 | 22.9 | 44.2 | 23.9 | 49.3 | 5.5 | 3.3 |
| | 市・町・村部 | 100.0 (2,026) | 61.0 | 24.0 | 44.1 | 24.9 | 55.3 | 5.4 | 2.8 |
| | 西多摩 | 100.0 (229) | 51.1 | 23.1 | 40.6 | 17.5 | 47.2 | 5.2 | 7.0 |
| | 南多摩 | 100.0 (758) | 64.5 | 26.1 | 47.1 | 26.0 | 57.3 | 4.5 | 2.6 |
| 北多摩西部 | 100.0 (215) | 63.3 | 23.7 | 37.7 | 28.8 | 48.4 | 10.7 | 1.4 | |
| 北多摩南部 | 100.0 (435) | 60.9 | 23.7 | 43.4 | 27.6 | 56.1 | 4.8 | 1.8 | |
| 北多摩北部 | 100.0 (389) | 58.9 | 21.1 | 44.7 | 22.1 | 59.1 | 5.1 | 2.6 | |

第6章 ユニバーサルデザイン

1 ユニバーサルデザインの認知度

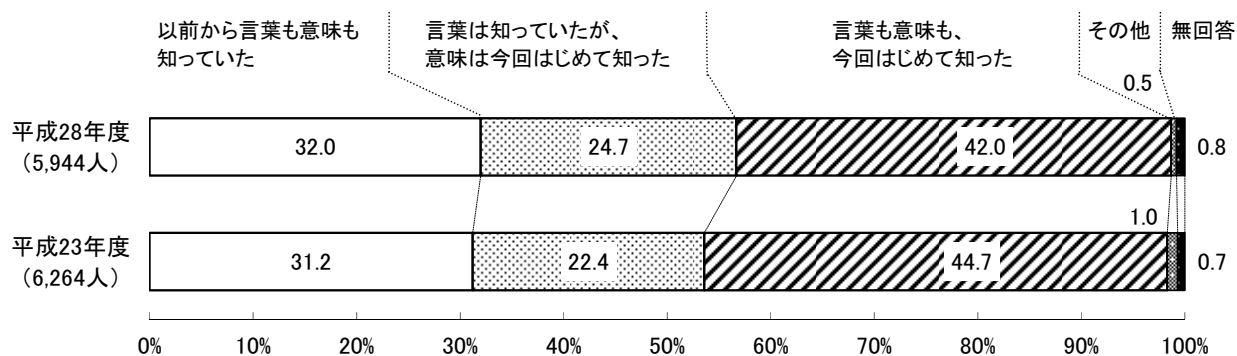
(1) ユニバーサルデザインの認知度－平成23年度調査との比較

「以前から言葉も意味も知っていた」の割合は、32.0%

「ユニバーサルデザイン」という言葉や意味を知っているかどうか聞いたところ、「以前から言葉も意味も知っていた」の割合は、32.0%となっている。

一方、「言葉も意味も、今回はじめて知った」の割合は42.0%となっている。(図Ⅱ-6-1)

図Ⅱ-6-1 ユニバーサルデザインの認知度－平成23年度調査との比較



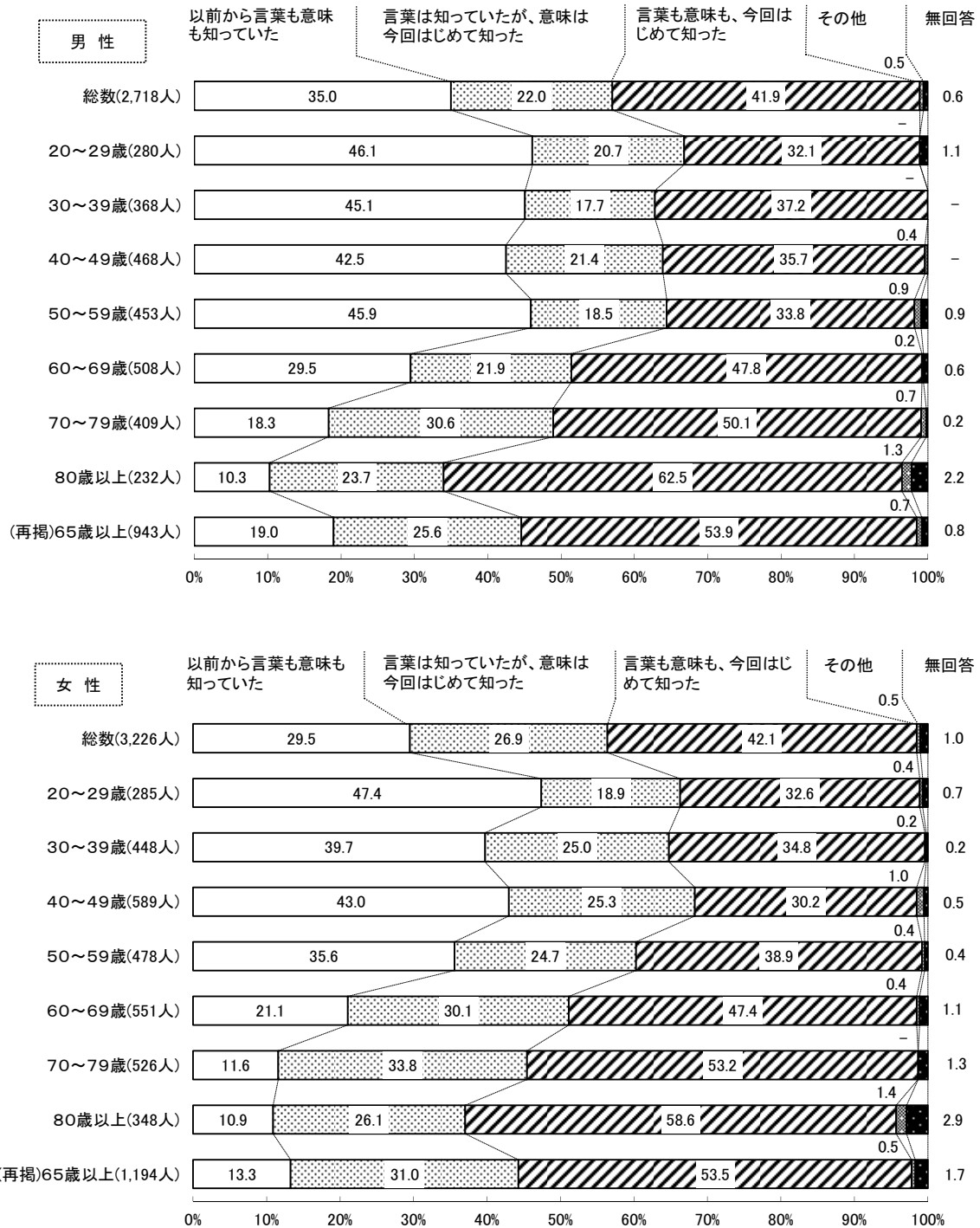
ア ユニバーサルデザインの認知度－性・年齢階級別

65歳以上では、「以前から言葉も意味も知っていた」の割合は、男性19.0%、女性13.3%

ユニバーサルデザインの認知度を性・年齢階級別にみると、「以前から言葉も意味も知っていた」の割合は、男性は35.0%、女性は29.5%となっている。

「以前から言葉も意味も知っていた」の割合は、65歳以上では、男性は19.0%、女性は13.3%となっている。(図Ⅱ-6-2)

図Ⅱ-6-2 ユニバーサルデザインの認知度－性・年齢階級別



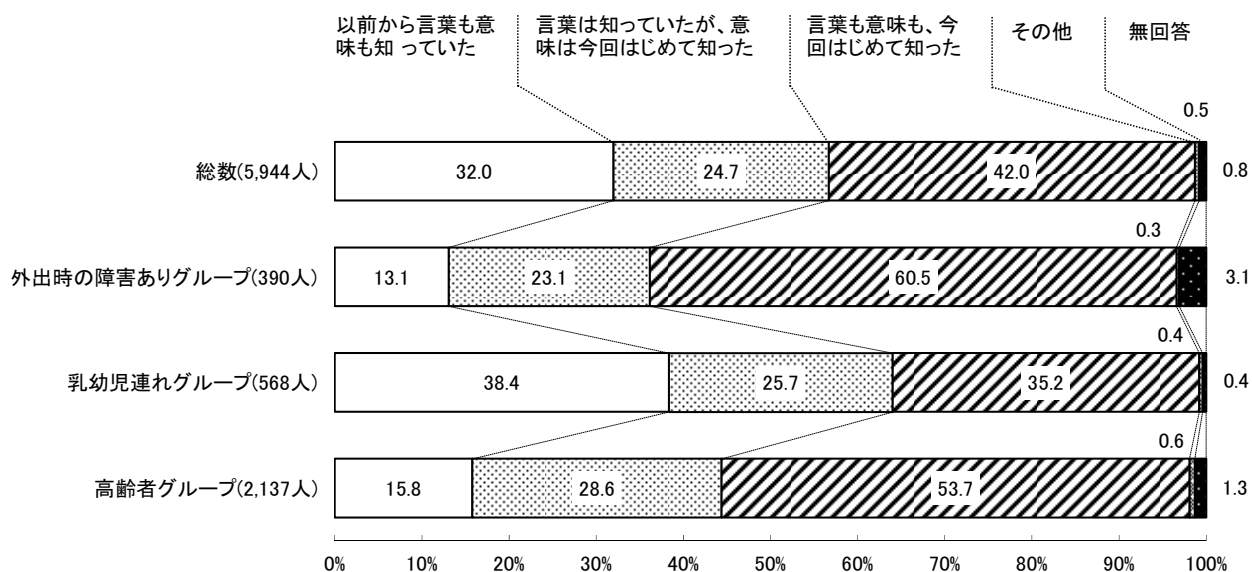
イ ユニバーサルデザインの認知度－外出時グループ別

外出時の障害ありグループでは、「以前から言葉も意味も知っていた」の割合は、13.1%

ユニバーサルデザインの認知度を外出時グループ別にみると、「以前から言葉も意味も知っていた」の割合は、外出時の障害ありグループは 13.1%、高齢者グループは 15.8%で、それぞれ総数（32.0%）に比べて、18.9ポイント、16.2ポイント低くなっている。

一方、乳幼児連れグループは 38.4%で、総数（32.0%）に比べて、6.4ポイント高くなっている。（図Ⅱ-6-3）

図Ⅱ-6-3 ユニバーサルデザインの認知度－外出時グループ別



第7章 東京の福祉のまちづくり

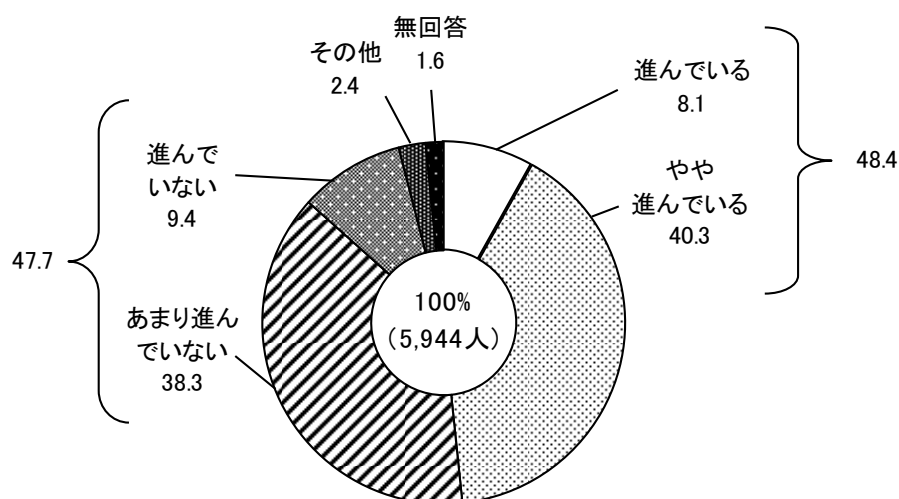
1 東京の福祉のまちづくりの印象

(1) 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況

「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合は、48.4%

現在の東京のまちにおける建物、道路、駅、電車などの施設や設備のバリアフリー化の状況について聞いたところ、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合は48.4%、「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合は47.7%で、ほぼ同じ割合となっている。(図Ⅱ-7-1)

図Ⅱ-7-1 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況



ア 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況－性・年齢階級別

男性は、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合の方が高く、女性は、「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合の方が高い

東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況を性別で見ると、男性は、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合は50.3%で、「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合（46.0%）よりも高くなっている。

一方、女性は、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合は46.7%で、「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合（49.1%）の方が高くなっている。（表Ⅱ-7-1）

表Ⅱ-7-1 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況－性・年齢階級別

| | 総数 | 進んでいる | やや進んでいる | あまり進んでいない | 進んでいない | その他 | 無回答 |
|-----------|------------------|-------|---------|-----------|--------|-----|-----|
| 総数 | 100.0 (5,944) | 8.1 | 40.3 | 38.3 | 9.4 | 2.4 | 1.6 |
| 男 | 100.0 (2,718) | 9.3 | 41.0 | 36.1 | 9.9 | 2.7 | 1.0 |
| | | 50.3 | | 46.0 | | | |
| 20～29歳 | 100.0 (280) | 6.8 | 41.8 | 37.9 | 10.4 | 2.5 | 0.7 |
| 30～39歳 | 100.0 (368) | 9.8 | 45.7 | 33.2 | 8.7 | 2.7 | - |
| 40～49歳 | 100.0 (468) | 12.0 | 41.5 | 34.6 | 9.2 | 2.4 | 0.4 |
| 50～59歳 | 100.0 (453) | 10.4 | 36.9 | 39.1 | 11.3 | 1.8 | 0.7 |
| 60～69歳 | 100.0 (508) | 6.5 | 39.4 | 37.0 | 12.0 | 4.1 | 1.0 |
| 70～79歳 | 100.0 (409) | 11.0 | 41.8 | 35.0 | 8.1 | 2.0 | 2.2 |
| 80歳以上 | 100.0 (232) | 7.3 | 42.2 | 35.3 | 9.1 | 3.4 | 2.6 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (943) | 8.8 | 41.3 | 35.9 | 8.9 | 3.3 | 1.8 |
| 女 | 100.0 (3,226) | 7.1 | 39.6 | 40.2 | 8.9 | 2.1 | 2.1 |
| | | 46.7 | | 49.1 | | | |
| 20～29歳 | 100.0 (285) | 3.5 | 44.2 | 42.5 | 6.3 | 1.4 | 2.1 |
| 30～39歳 | 100.0 (448) | 4.2 | 40.0 | 42.6 | 10.5 | 1.3 | 1.3 |
| 40～49歳 | 100.0 (589) | 7.8 | 38.7 | 39.0 | 11.0 | 2.2 | 1.2 |
| 50～59歳 | 100.0 (478) | 6.9 | 36.4 | 45.6 | 9.0 | 0.6 | 1.5 |
| 60～69歳 | 100.0 (551) | 7.1 | 36.3 | 41.9 | 9.6 | 2.7 | 2.4 |
| 70～79歳 | 100.0 (526) | 9.1 | 45.4 | 33.1 | 7.4 | 1.7 | 3.2 |
| 80歳以上 | 100.0 (348) | 9.8 | 37.6 | 37.6 | 6.6 | 5.2 | 3.2 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (1,194) | 9.1 | 40.3 | 36.8 | 7.7 | 3.0 | 3.1 |

イ 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況—地域別

区部は、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合の方が高く、市町村は、「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合の方が高い

東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況を地域別にみると、区部は、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合 49.1%で、「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合（47.0%）より高くなっている。

一方、市町村部は、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合わせた割合 47.0%で、「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合（48.9%）の方が高くなっている。（表Ⅱ-7-2）

表Ⅱ-7-2 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況—地域別

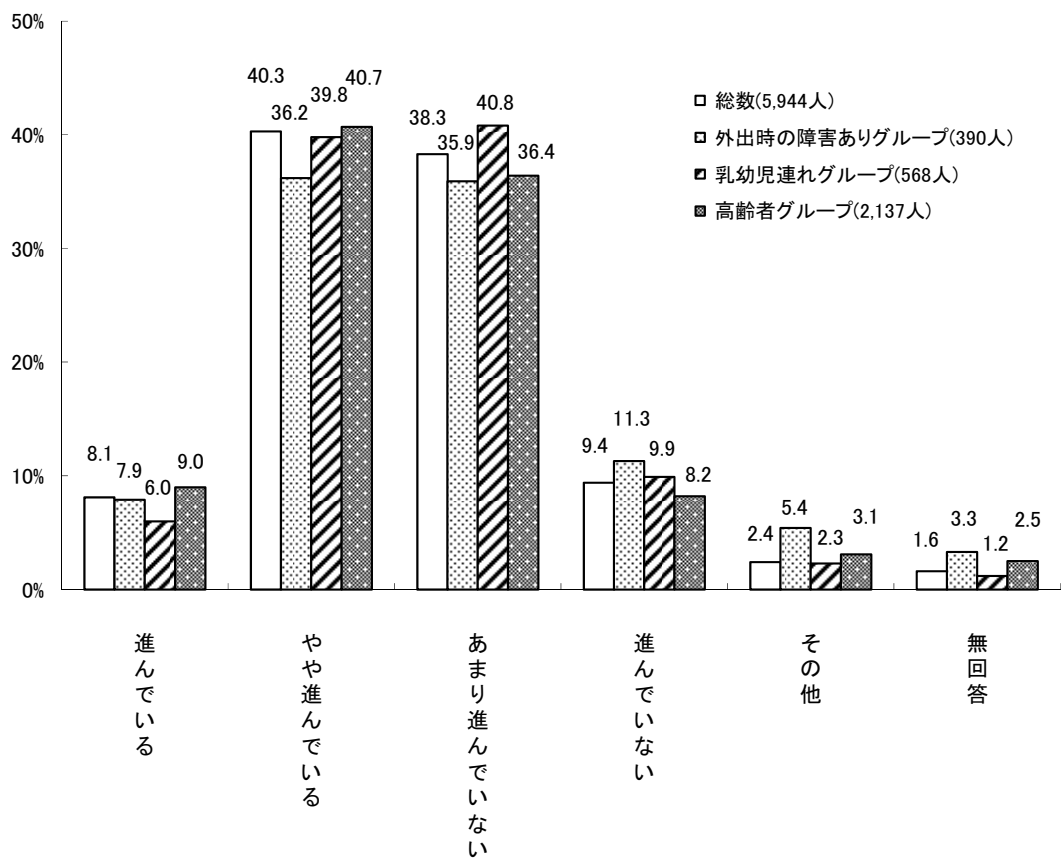
| | 総数 | 進んでいる | やや進んでいる | あまり進んでいない | 進んでいない | その他 | 無回答 |
|--------|------------------|-------|---------|-----------|--------|-----|-----|
| 総数 | 100.0 (5,944) | 8.1 | 40.3 | 38.3 | 9.4 | 2.4 | 1.6 |
| 区部 | 100.0 (3,918) | 8.2 | 40.9 | 37.1 | 10.0 | 2.2 | 1.7 |
| | | 49.1 | | 47.0 | | | |
| 区中央部 | 100.0 (378) | 8.2 | 39.4 | 39.9 | 10.1 | 1.1 | 1.3 |
| 区南部 | 100.0 (444) | 10.4 | 44.4 | 34.2 | 7.2 | 2.0 | 1.8 |
| 区西南部 | 100.0 (596) | 5.4 | 40.8 | 37.4 | 12.8 | 2.2 | 1.5 |
| 区西部 | 100.0 (488) | 9.0 | 43.0 | 35.5 | 8.0 | 2.3 | 2.3 |
| 区西北部 | 100.0 (783) | 6.4 | 41.6 | 39.5 | 9.2 | 1.9 | 1.4 |
| 区東北部 | 100.0 (596) | 7.4 | 37.1 | 36.1 | 14.3 | 3.4 | 1.8 |
| 区東部 | 100.0 (633) | 11.5 | 40.6 | 36.2 | 7.7 | 2.2 | 1.7 |
| 市・町・村部 | 100.0 (2,026) | 8.0 | 39.0 | 40.7 | 8.2 | 2.7 | 1.4 |
| | | 47.0 | | 48.9 | | | |
| 西多摩 | 100.0 (229) | 8.3 | 32.3 | 41.5 | 10.9 | 4.4 | 2.6 |
| 南多摩 | 100.0 (758) | 7.8 | 38.9 | 42.0 | 7.4 | 2.6 | 1.3 |
| 北多摩西部 | 100.0 (215) | 5.1 | 36.3 | 46.5 | 9.8 | 0.9 | 1.4 |
| 北多摩南部 | 100.0 (435) | 9.2 | 40.9 | 36.1 | 7.6 | 4.6 | 1.6 |
| 北多摩北部 | 100.0 (389) | 8.5 | 42.4 | 39.6 | 8.2 | 0.8 | 0.5 |

ウ 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況－外出時グループ別

乳幼児連れグループは、「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合は5割で、総数に比べて高い

東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況を外出時グループ別にみると、乳幼児連れグループは、「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合が50.7%で、5割となっている。(図Ⅱ-7-2)

図Ⅱ-7-2 東京のまちにおける施設や設備のバリアフリー化の状況－外出時グループ別



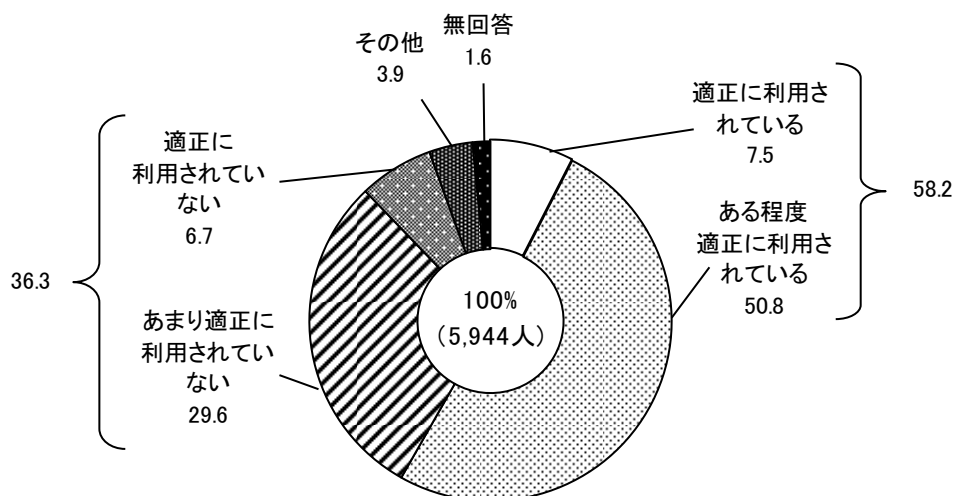
(2) 東京のまちにおける施設や設備の利用状況等

「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は、58.2%

現在の東京のまちにおける車いす利用者等にも使いやすい施設や設備（様々な機能がついている広いトイレや、幅の広い駐車スペースなど）の利用状況等について聞いたところ、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は58.2%となっている。

一方、「適正に利用されていない」と「あまり適正に利用されていない」を合わせた割合は36.3%となっている。（図Ⅱ-7-3）

図Ⅱ-7-3 東京のまちにおける施設や設備の利用状況等



注) 「適正な利用」とは、施設・設備を必要としている人が利用したい時に利用できる状態にあることをいう。

例えば、通常の駐車スペースで乗り降りできる人が幅の広い駐車スペースに駐車しているために、車いす利用者等が駐車できない状態は、適正な利用とはいわない。

ア 東京のまちにおける施設や設備の利用状況等－性・年齢階級別

「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は、女性の方が高く、約6割

東京のまちにおける施設や設備の利用状況等を性別にみると、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は、男性56.5%、女性59.7%で、女性の方が3.2ポイント高くなっている。(表Ⅱ-7-3)

表Ⅱ-7-3 東京のまちにおける施設や設備の利用状況等－性・年齢階級別

| | 総数 | 適正に利用されている | ある程度適正に利用されている | あまり適正に利用されていない | 適正に利用されていない | その他 | 無回答 |
|-----------|------------------|------------|----------------|----------------|-------------|------|-----|
| 総数 | 100.0 (5,944) | 7.5 | 50.8 | 29.6 | 6.7 | 3.9 | 1.6 |
| 男 | 100.0 (2,718) | 7.8 | 48.7 | 31.1 | 7.7 | 3.6 | 1.1 |
| | | 56.5 | | | | | |
| 20～29歳 | 100.0 (280) | 5.7 | 52.5 | 30.0 | 7.9 | 2.9 | 1.1 |
| 30～39歳 | 100.0 (368) | 10.1 | 49.5 | 30.4 | 7.9 | 1.6 | 0.5 |
| 40～49歳 | 100.0 (468) | 8.3 | 50.6 | 32.3 | 6.2 | 2.4 | 0.2 |
| 50～59歳 | 100.0 (453) | 8.8 | 43.9 | 36.0 | 9.3 | 2.0 | - |
| 60～69歳 | 100.0 (508) | 5.9 | 49.2 | 30.9 | 7.9 | 5.5 | 0.6 |
| 70～79歳 | 100.0 (409) | 8.6 | 50.1 | 26.7 | 7.8 | 4.2 | 2.7 |
| 80歳以上 | 100.0 (232) | 6.5 | 44.8 | 29.3 | 6.9 | 7.8 | 4.7 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (943) | 7.3 | 48.5 | 28.5 | 7.5 | 5.5 | 2.7 |
| 女 | 100.0 (3,226) | 7.2 | 52.5 | 28.4 | 5.8 | 4.1 | 2.0 |
| | | 59.7 | | | | | |
| 20～29歳 | 100.0 (285) | 7.7 | 55.8 | 27.7 | 5.6 | 2.1 | 1.1 |
| 30～39歳 | 100.0 (448) | 5.6 | 59.4 | 28.6 | 4.0 | 2.0 | 0.4 |
| 40～49歳 | 100.0 (589) | 7.8 | 52.6 | 29.4 | 6.1 | 3.4 | 0.7 |
| 50～59歳 | 100.0 (478) | 5.9 | 53.1 | 31.2 | 6.3 | 3.1 | 0.4 |
| 60～69歳 | 100.0 (551) | 6.9 | 52.5 | 30.1 | 4.5 | 4.2 | 1.8 |
| 70～79歳 | 100.0 (526) | 8.7 | 50.8 | 24.7 | 6.5 | 4.8 | 4.6 |
| 80歳以上 | 100.0 (348) | 7.8 | 42.2 | 26.4 | 8.0 | 10.1 | 5.5 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (1,194) | 8.7 | 48.6 | 26.0 | 6.6 | 5.9 | 4.1 |

イ 東京のまちにおける施設や設備の利用状況等—地域別

「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は、市町村部の方が高い

東京のまちにおける施設や設備の利用状況等を地域別にみると、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合は、区部は 57.6%、市町村部は 59.4%で、市町村部の方が 1.8 ポイント高くなっている。(表Ⅱ-7-4)

表Ⅱ-7-4 東京のまちにおける施設や設備の利用状況等—地域別

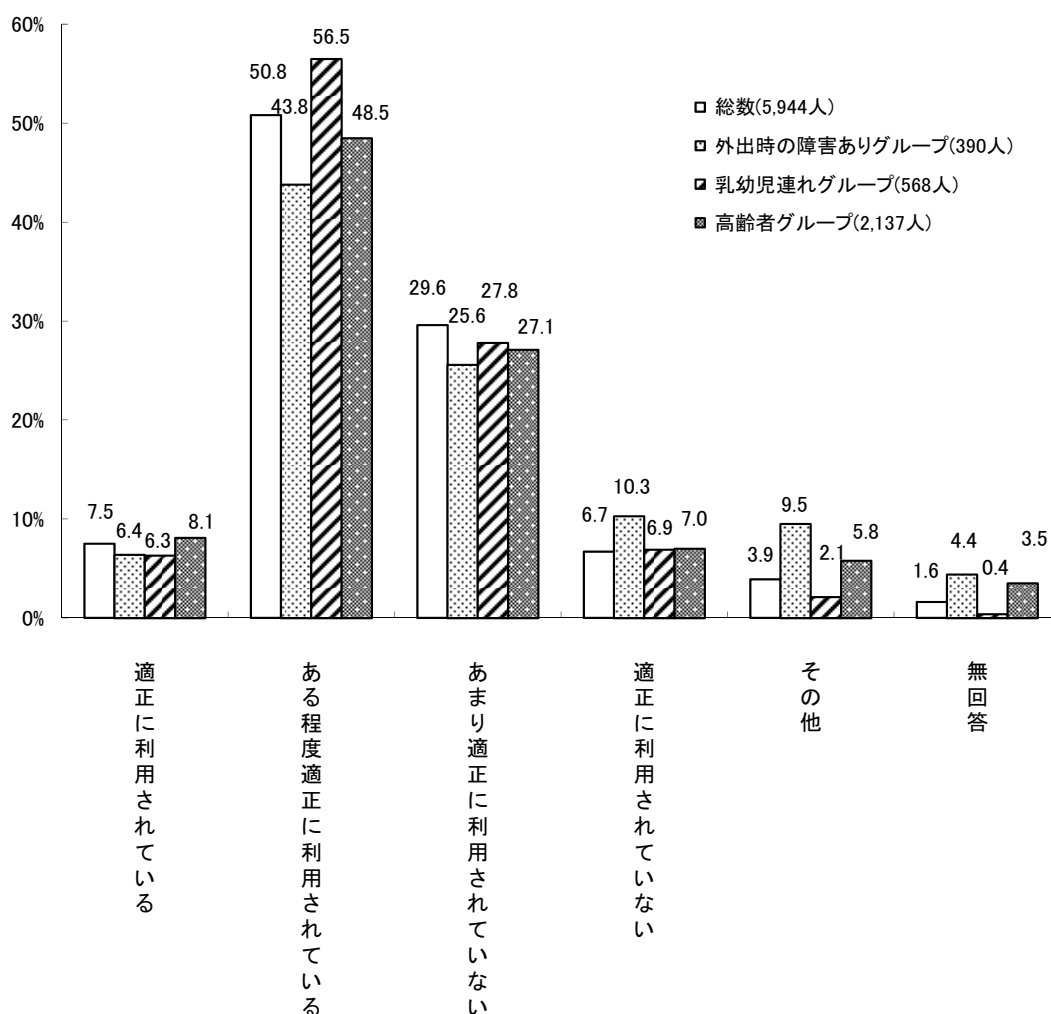
| | 総数 | 適正に利用されている | ある程度適正に利用されている | あまり適正に利用されていない | 適正に利用されていない | その他 | 無回答 |
|--------|------------------|------------|----------------|----------------|-------------|-----|-----|
| 総数 | 100.0 (5,944) | 7.5 | 50.8 | 29.6 | 6.7 | 3.9 | 1.6 |
| 区部 | 100.0 (3,918) | 7.7 | 49.9 | 30.1 | 6.3 | 4.3 | 1.7 |
| | | 57.6 | | | | | |
| 区中央部 | 100.0 (378) | 7.9 | 51.9 | 25.9 | 5.0 | 6.9 | 2.4 |
| 区南部 | 100.0 (444) | 7.2 | 51.8 | 30.4 | 4.7 | 4.5 | 1.4 |
| 区西南部 | 100.0 (596) | 6.0 | 51.7 | 30.2 | 5.5 | 4.7 | 1.8 |
| 区西部 | 100.0 (488) | 7.6 | 50.8 | 29.5 | 5.9 | 4.1 | 2.0 |
| 区西北部 | 100.0 (783) | 7.8 | 51.2 | 30.0 | 5.9 | 4.0 | 1.1 |
| 区東北部 | 100.0 (596) | 7.2 | 43.6 | 33.9 | 9.1 | 4.4 | 1.8 |
| 区東部 | 100.0 (633) | 9.6 | 49.6 | 29.1 | 7.3 | 2.7 | 1.7 |
| 市・町・村部 | 100.0 (2,026) | 7.1 | 52.3 | 28.8 | 7.4 | 3.1 | 1.4 |
| | | 59.4 | | | | | |
| 西多摩 | 100.0 (229) | 7.0 | 51.1 | 29.3 | 6.1 | 2.6 | 3.9 |
| 南多摩 | 100.0 (758) | 7.7 | 52.5 | 29.2 | 7.3 | 2.0 | 1.5 |
| 北多摩西部 | 100.0 (215) | 9.3 | 45.1 | 32.1 | 8.8 | 4.2 | 0.5 |
| 北多摩南部 | 100.0 (435) | 6.7 | 56.3 | 25.7 | 6.9 | 3.9 | 0.5 |
| 北多摩北部 | 100.0 (389) | 5.4 | 52.2 | 29.3 | 8.0 | 3.9 | 1.3 |

ウ 東京のまちにおける施設や設備の利用状況等－外出時グループ別

外出時の障害ありグループは、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合が50.3%で、総数に比べて7.9ポイント低い

東京のまちにおける施設や設備の利用状況等を外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループでは、「適正に利用されている」と「ある程度適正に利用されている」を合わせた割合が50.3%で、総数（58.2%）に比べて、7.9ポイント低くなっている。（図Ⅱ-7-4）

図Ⅱ-7-4 東京のまちにおける施設や設備の利用状況等－外出時グループ別



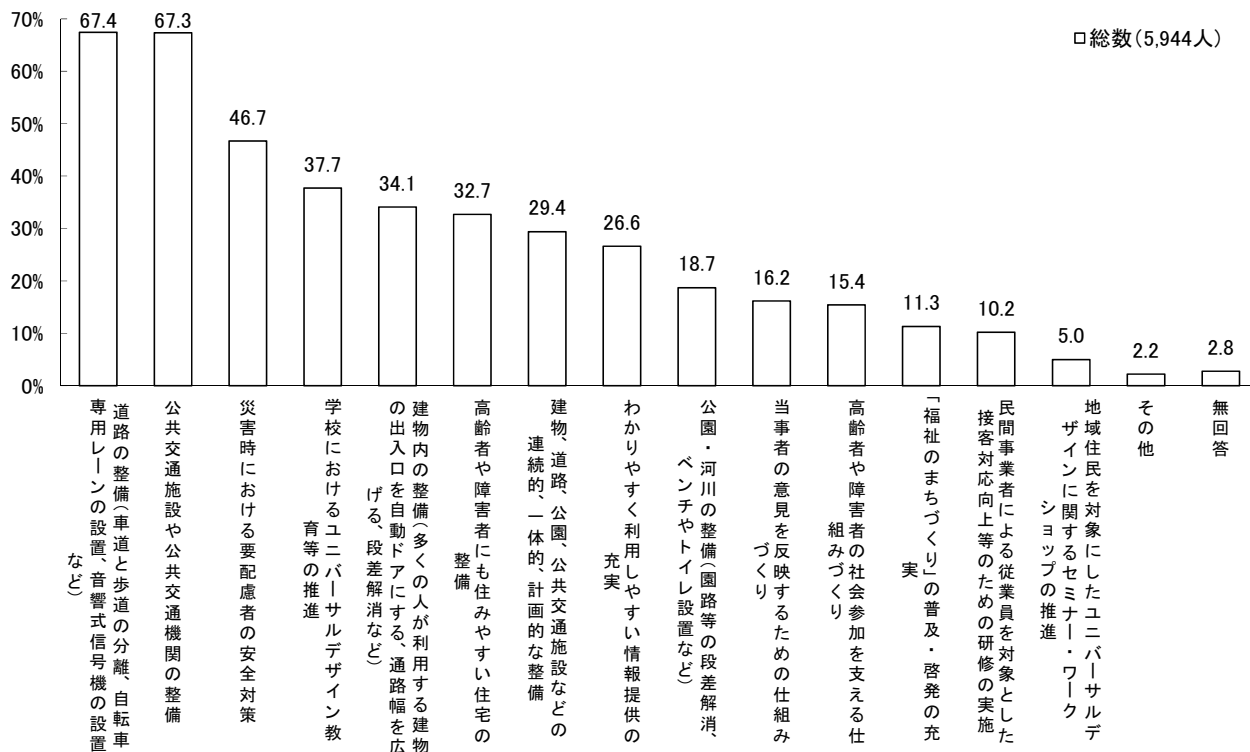
2 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの

(1) 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

「道路の整備」、「公共交通施設や公共交通機関の整備」の割合が6割超

今後「ユニバーサルデザインの理念に基づいた福祉のまちづくり」を進めていくにあたり、東京都が特に重点をおいて取り組む必要があるものを聞いたところ、「道路の整備」の割合が67.4%、「公共交通施設や公共交通機関の整備」が67.3%となっている。(図Ⅱ-7-5)

図Ⅱ-7-5 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕



ア 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕－性・年齢階級別

男女ともにすべての年代において、「公共交通施設や公共交通機関の整備」、「道路の整備」の割合が高い

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があるものを性・年齢階級別にみると、男女ともにすべての年代で、「公共交通施設や公共交通機関の整備」、「道路の整備」の割合が高くなっている。

また、「災害時における要配慮者の安全対策」の割合は、男性は 42.7%、女性は 50.0%で、女性の方が 7.3 ポイント高くなっている。(表Ⅱ-7-5)

表Ⅱ-7-5 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

－性・年齢階級別

| | 総数 | 公共交通施設や公共交通機関の整備 | 建物内の整備 | 道路の整備 | 公園・河川の整備 | 建物の一体的、計画的な整備 | 高年齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備 | 高年齢者や障害者の社会参加を支える仕組みづくり | 災害時における要配慮者の安全対策 | わかりやすく利用しやすい情報提供の充実 | 「福祉のまちづくり」の普及・啓発の充実 | 当事者の意見を反映するための仕組みづくり | 学校におけるユニバーサルデザイン教育等の推進 | 地域住民を対象にしたユニバーサルデザインの推進 | 民間事業者による従業員を対象とした接客対応向上のための研修の実施 | その他 | 無回答 |
|-----------|------------------|------------------|--------|-------|----------|---------------|----------------------|-------------------------|------------------|---------------------|---------------------|----------------------|------------------------|-------------------------|----------------------------------|-----|-----|
| 総数 | 100.0 (5,944) | 67.3 | 34.1 | 67.4 | 18.7 | 29.4 | 32.7 | 15.4 | 46.7 | 26.6 | 11.3 | 16.2 | 37.7 | 5.0 | 10.2 | 2.2 | 2.8 |
| 男 | 100.0 (2,718) | 67.0 | 35.6 | 67.4 | 20.9 | 31.9 | 31.6 | 13.9 | 42.7 | 27.0 | 13.3 | 16.6 | 36.9 | 5.9 | 9.3 | 2.7 | 2.6 |
| 20～29歳 | 100.0 (280) | 66.1 | 44.6 | 61.8 | 22.9 | 33.9 | 28.6 | 10.4 | 35.0 | 32.9 | 11.1 | 16.8 | 34.6 | 5.0 | 8.2 | 1.4 | 2.1 |
| 30～39歳 | 100.0 (368) | 64.1 | 38.6 | 61.7 | 21.5 | 37.5 | 22.3 | 14.4 | 38.9 | 31.3 | 9.5 | 20.7 | 37.8 | 6.3 | 11.1 | 3.3 | 1.4 |
| 40～49歳 | 100.0 (468) | 67.7 | 34.8 | 67.5 | 18.8 | 35.3 | 27.6 | 14.5 | 35.9 | 29.7 | 12.2 | 16.5 | 40.0 | 6.0 | 8.5 | 3.4 | 1.5 |
| 50～59歳 | 100.0 (453) | 69.1 | 36.6 | 70.9 | 17.9 | 29.4 | 33.1 | 15.0 | 45.7 | 24.9 | 10.8 | 18.5 | 36.0 | 4.6 | 11.9 | 1.8 | 2.0 |
| 60～69歳 | 100.0 (508) | 69.3 | 32.7 | 72.0 | 20.3 | 33.1 | 34.6 | 15.4 | 45.5 | 28.0 | 15.2 | 16.3 | 40.6 | 5.7 | 9.3 | 2.6 | 2.4 |
| 70～79歳 | 100.0 (409) | 67.5 | 32.3 | 67.0 | 22.2 | 27.6 | 37.7 | 13.7 | 49.6 | 21.5 | 18.8 | 15.2 | 36.9 | 7.3 | 7.8 | 3.2 | 4.4 |
| 80歳以上 | 100.0 (232) | 60.8 | 31.5 | 67.2 | 26.3 | 23.3 | 37.9 | 11.6 | 47.8 | 19.8 | 15.1 | 9.9 | 25.9 | 6.5 | 6.9 | 3.4 | 5.6 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (943) | 66.8 | 32.2 | 69.2 | 22.2 | 28.1 | 36.1 | 14.0 | 48.8 | 22.5 | 17.1 | 14.4 | 35.4 | 6.7 | 8.7 | 3.1 | 3.9 |
| 女 | 100.0 (3,226) | 67.6 | 32.9 | 67.3 | 17.0 | 27.3 | 33.6 | 16.7 | 50.0 | 26.2 | 9.7 | 15.8 | 38.3 | 4.3 | 11.0 | 1.7 | 3.1 |
| 20～29歳 | 100.0 (285) | 68.4 | 41.1 | 57.2 | 18.2 | 29.1 | 28.1 | 19.6 | 48.8 | 33.3 | 6.7 | 17.2 | 30.9 | 2.8 | 11.2 | - | 2.5 |
| 30～39歳 | 100.0 (448) | 74.8 | 36.6 | 63.2 | 17.9 | 33.0 | 25.9 | 17.9 | 48.9 | 25.4 | 5.8 | 17.0 | 46.7 | 2.7 | 10.9 | 1.6 | 0.7 |
| 40～49歳 | 100.0 (589) | 70.8 | 33.6 | 71.1 | 12.9 | 32.8 | 30.7 | 17.8 | 47.2 | 25.6 | 7.5 | 20.4 | 41.8 | 2.7 | 11.5 | 1.4 | 1.4 |
| 50～59歳 | 100.0 (478) | 71.5 | 33.7 | 73.0 | 12.1 | 30.3 | 35.8 | 18.6 | 51.5 | 27.8 | 8.8 | 18.8 | 39.3 | 4.0 | 12.6 | 1.5 | 0.4 |
| 60～69歳 | 100.0 (551) | 68.1 | 30.1 | 73.5 | 16.2 | 28.9 | 35.4 | 18.3 | 49.4 | 26.7 | 11.6 | 14.5 | 45.7 | 5.3 | 10.5 | 0.2 | 3.1 |
| 70～79歳 | 100.0 (526) | 60.5 | 30.4 | 68.1 | 24.1 | 18.6 | 39.7 | 12.4 | 53.8 | 23.0 | 14.4 | 12.9 | 33.5 | 6.5 | 8.9 | 2.3 | 6.5 |
| 80歳以上 | 100.0 (348) | 57.2 | 27.3 | 55.5 | 18.7 | 15.8 | 38.2 | 12.1 | 50.6 | 24.1 | 12.1 | 7.8 | 22.1 | 6.3 | 11.5 | 5.7 | 8.0 |
| (再掲)65歳以上 | 100.0 (1,194) | 60.8 | 28.7 | 65.9 | 20.8 | 19.9 | 38.9 | 13.6 | 51.8 | 24.4 | 13.3 | 11.3 | 33.6 | 6.1 | 9.9 | 2.8 | 6.3 |

イ 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕－地域別

区部、市町村部ともに「公共交通施設や公共交通機関の整備」、「道路の整備」の割合が高い

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があるものを地域別にみると、区部では、「公共交通施設や公共交通機関の整備」の割合が 68.4%で最も高く、次いで「道路の整備」が 66.8%となっている。

一方、市町村部では、「道路の整備」の割合が 68.5%で最も高く、次いで「公共交通施設や公共交通機関の整備」が 65.3%となっている。(表Ⅱ-7-6)

表Ⅱ-7-6 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕－地域別

| | 総数 | 公共交通施設や公共交通機関の整備 | 建物内の整備 | 道路の整備 | 公園・河川の整備 | 建物の一体的、計画的な整備 | 高年齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備 | 高齢者や障害者の社会参加を支援する仕組みづくり | 災害時における要配慮者の安全対策 | わかりやすく利用しやすい情報提供の充実 | 「福祉のまちづくり」の普及・啓発の充実 | 当事者の意見を反映するための仕組みづくり | 学校におけるユニバーサルデザイン教育等の推進 | 地域住民を対象としたユニバーサルデザインの推進 | 民間事業者による従業員を対象とした接客対応向上のための研修の実施 | その他 | 無回答 |
|--------|------------------|------------------|--------|-------------|----------|---------------|----------------------|-------------------------|------------------|---------------------|---------------------|----------------------|------------------------|-------------------------|----------------------------------|-----|-----|
| 総数 | 100.0 (5,944) | 67.3 | 34.1 | 67.4 | 18.7 | 29.4 | 32.7 | 15.4 | 46.7 | 26.6 | 11.3 | 16.2 | 37.7 | 5.0 | 10.2 | 2.2 | 2.8 |
| 区部 | 100.0 (3,918) | <u>68.4</u> | 34.2 | <u>66.8</u> | 18.5 | 28.6 | 33.8 | 15.5 | 46.5 | 26.9 | 11.3 | 16.3 | 36.4 | 4.7 | 10.6 | 2.1 | 2.7 |
| 区中央部 | 100.0 (378) | 66.9 | 31.0 | 67.2 | 18.5 | 27.5 | 31.0 | 17.2 | 45.2 | 25.9 | 10.1 | 20.1 | 31.7 | 5.6 | 10.8 | 1.6 | 2.4 |
| 区南部 | 100.0 (444) | 69.4 | 32.7 | 65.1 | 17.6 | 27.7 | 33.1 | 15.5 | 50.5 | 28.2 | 12.2 | 17.3 | 38.3 | 4.1 | 8.1 | 2.3 | 2.0 |
| 区西南部 | 100.0 (596) | 70.0 | 35.7 | 63.8 | 18.6 | 31.4 | 31.4 | 15.3 | 45.8 | 25.0 | 12.6 | 17.8 | 37.9 | 5.5 | 11.4 | 1.3 | 3.7 |
| 区西部 | 100.0 (488) | 67.8 | 34.0 | 66.6 | 18.0 | 29.3 | 31.4 | 12.3 | 47.3 | 27.5 | 10.5 | 17.0 | 34.2 | 5.7 | 13.3 | 2.9 | 2.0 |
| 区西北部 | 100.0 (783) | 70.1 | 35.2 | 69.9 | 17.9 | 29.2 | 33.6 | 17.1 | 45.1 | 27.3 | 11.2 | 16.0 | 40.4 | 4.5 | 9.5 | 1.8 | 2.7 |
| 区東北部 | 100.0 (596) | 63.4 | 32.9 | 64.8 | 21.1 | 26.0 | 36.6 | 15.1 | 41.3 | 28.2 | 11.4 | 13.8 | 36.4 | 4.5 | 10.6 | 3.9 | 3.0 |
| 区東部 | 100.0 (633) | 70.0 | 36.0 | 68.7 | 17.7 | 28.1 | 37.6 | 15.5 | 50.9 | 26.2 | 10.9 | 14.1 | 33.2 | 3.5 | 10.6 | 1.4 | 2.8 |
| 市・町・村部 | 100.0 (2,026) | <u>65.3</u> | 34.0 | <u>68.5</u> | 19.2 | 31.0 | 30.7 | 15.3 | 47.1 | 26.0 | 11.4 | 16.0 | 40.1 | 5.7 | 9.6 | 2.2 | 3.1 |
| 西多摩 | 100.0 (229) | 58.1 | 34.5 | 70.3 | 22.7 | 27.5 | 30.6 | 11.8 | 52.4 | 28.4 | 9.6 | 17.0 | 41.5 | 7.0 | 8.7 | 1.7 | 4.8 |
| 南多摩 | 100.0 (758) | 68.1 | 33.2 | 67.4 | 19.4 | 32.5 | 31.9 | 16.1 | 47.4 | 24.5 | 12.5 | 16.0 | 38.8 | 6.7 | 9.6 | 1.6 | 3.3 |
| 北多摩西部 | 100.0 (215) | 60.0 | 32.6 | 63.3 | 18.6 | 28.8 | 27.9 | 12.6 | 44.7 | 30.2 | 13.0 | 14.0 | 43.7 | 6.0 | 11.2 | 4.7 | 2.8 |
| 北多摩南部 | 100.0 (435) | 66.2 | 34.5 | 69.7 | 15.2 | 31.0 | 31.0 | 14.5 | 48.7 | 26.0 | 10.1 | 15.4 | 40.0 | 4.4 | 9.0 | 1.8 | 2.8 |
| 北多摩北部 | 100.0 (389) | 66.1 | 35.2 | 71.2 | 21.6 | 31.6 | 29.3 | 18.3 | 42.9 | 24.9 | 10.8 | 17.2 | 40.1 | 4.4 | 9.8 | 2.8 | 2.1 |

ウ 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕－外出時グループ別

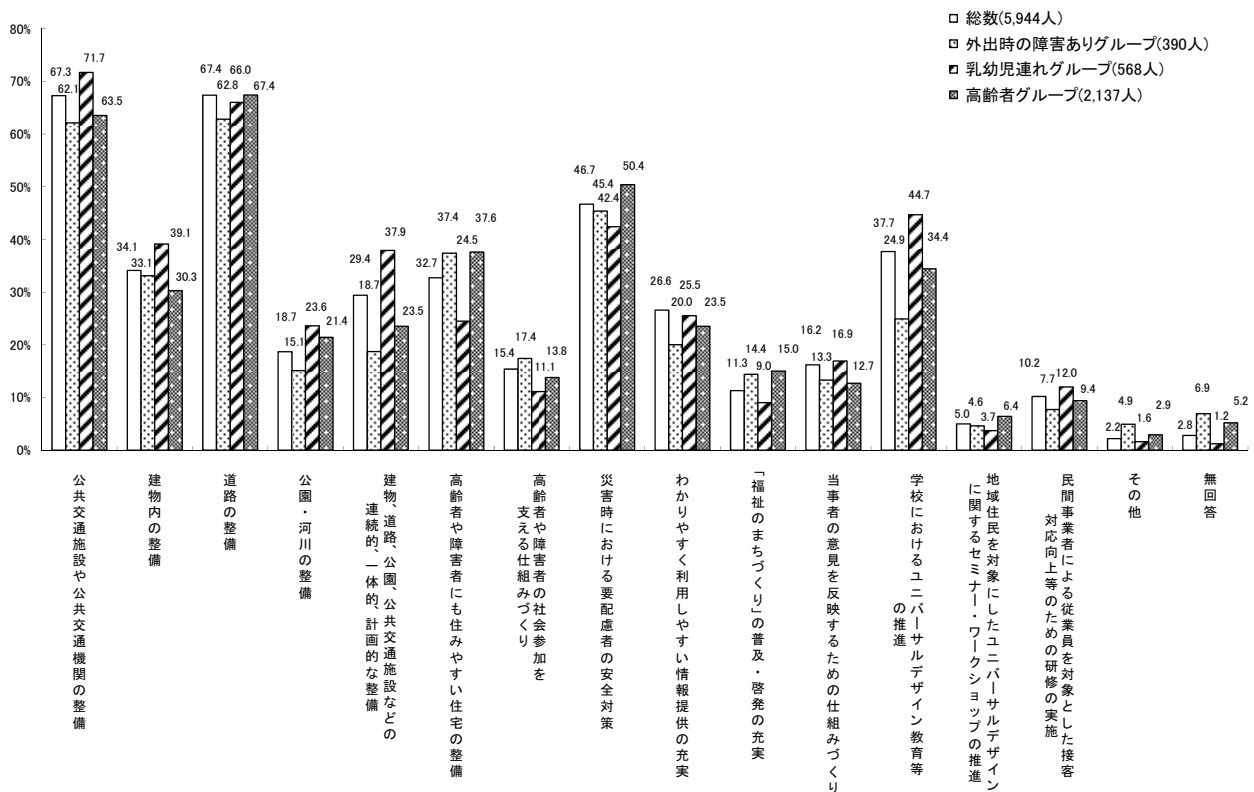
乳幼児連れグループは、「建物、道路、公園、公共交通施設などの連続的、一体的、計画的な整備」の割合が、総数に比べて高い

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があるものを外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループでは、「高齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備」の割合が37.4%、『福祉のまちづくり』の普及・啓発の充実が14.4%で、それぞれ総数（32.7%、11.3%）に比べて、4.7ポイント、3.1ポイント高くなっている。

乳幼児連れグループでは、「建物、道路、公園、公共交通施設などの連続的、一体的、計画的な整備」の割合が37.9%、「学校におけるユニバーサルデザイン教育等の推進」が44.7%で、それぞれ総数（29.4%、37.7%）に比べて、8.5ポイント、7.0ポイント高くなっている。

高齢者グループでは、「高齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備」の割合が37.6%、「災害時における要配慮者の安全対策」が50.4%で、それぞれ総数（32.7%、46.7%）に比べて、4.9ポイント、3.7ポイント高くなっている。（図Ⅱ-7-6）

図Ⅱ-7-6 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕－外出時グループ別



エ 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

すべての障害において、「公共交通施設や公共交通機関の整備」、「道路の整備」の割合が高い

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があるものを外出時の障害の有無別にみると、すべての障害において、「公共交通施設や公共交通機関の整備」、「道路の整備」の割合が高くなっている。

また、視覚に障害がある人では、「高齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備」の割合が 44.3%で、総数（32.7%）に比べて 11.6 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-7-7）

表Ⅱ-7-7 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

| | 総数 | 公共交通施設や公共交通機関の整備 | 建物内の整備 | 道路の整備 | 公園・河川の整備 | 建物、道路、公園、公共施設などの連続的、一体的、計画的な整備 | 高齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備 | 高齢者や障害者の社会参加を支える仕組みづくり | 災害時における要配慮者の安全対策 | わかりやすく利用しやすい情報提供の充実 | 「福祉のまちづくり」の普及・啓発の充実 | 当事者の意見を反映するための仕組みづくり | 学校におけるユニバーサルデザイン教育等の推進 | 地域住民を対象にしたユニバーサルデザインの推進 | 民間事業者による従業員を対象とした接客対応向上のための研修の実施 | その他 | 無回答 |
|---------------|------------------|------------------|--------|-------------|----------|--------------------------------|---------------------|------------------------|------------------|---------------------|---------------------|----------------------|------------------------|-------------------------|----------------------------------|-----|-----|
| 総数 | 100.0 (5,944) | 67.3 | 2.0 | 67.4 | 18.7 | 29.4 | <u>32.7</u> | 15.4 | 46.7 | 26.6 | 11.3 | 16.2 | 37.7 | 5.0 | 10.2 | 2.2 | 2.8 |
| 外出時に何らかの障害がある | 100.0 (390) | 62.1 | 33.1 | 62.8 | 15.1 | 18.7 | 37.4 | 17.4 | 45.4 | 20.0 | 14.4 | 13.3 | 24.9 | 4.6 | 7.7 | 4.9 | 6.9 |
| 視覚 | 100.0 (88) | <u>55.7</u> | 28.4 | <u>64.8</u> | 18.2 | 19.3 | <u>44.3</u> | 20.5 | 36.4 | 23.9 | 13.6 | 10.2 | 22.7 | 3.4 | 3.4 | 4.5 | 8.0 |
| 聴覚 | 100.0 (112) | <u>65.2</u> | 33.0 | <u>71.4</u> | 16.1 | 19.6 | 39.3 | 18.8 | 43.8 | 14.3 | 12.5 | 13.4 | 33.0 | 4.5 | 8.0 | 2.7 | 5.4 |
| 肢体 | 100.0 (237) | <u>58.6</u> | 35.0 | <u>62.4</u> | 15.2 | 18.1 | 39.2 | 15.6 | 47.7 | 21.9 | 15.2 | 13.1 | 21.9 | 3.4 | 8.0 | 4.6 | 8.0 |
| 内部 | 100.0 (139) | <u>60.4</u> | 30.9 | <u>56.8</u> | 18.7 | 14.4 | 37.4 | 13.7 | 47.5 | 20.1 | 11.5 | 12.9 | 21.6 | 5.8 | 6.5 | 7.2 | 9.4 |
| その他 | 100.0 (148) | <u>56.1</u> | 29.7 | <u>58.8</u> | 14.9 | 18.2 | 38.5 | 16.2 | 45.3 | 14.9 | 16.2 | 12.2 | 20.9 | 3.4 | 7.4 | 8.8 | 8.8 |
| 外出時に障害がない | 100.0 (5,516) | 67.7 | 34.2 | 67.7 | 19.0 | 30.2 | 32.3 | 15.3 | 46.8 | 27.1 | 11.1 | 16.4 | 38.7 | 5.1 | 10.4 | 1.9 | 2.5 |

オ 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「道路の整備」の割合が最も高い

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があるものを外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「道路の整備」の割合が63.5%で最も高く、次いで「公共交通施設や公共交通機関の整備」が58.5%、「災害時における要配慮者の安全対策」が46.8%となっている。(表Ⅱ-7-8)

表Ⅱ-7-8 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があるもの〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

| | 総数 | 公共交通施設や公共交通機関の整備 | 建物内の整備 | 道路の整備 | 公園・河川の整備 | 建物の一体的、連続的、一体的、計画的な整備 | 高齢者や障害者にも住みやすい住宅の整備 | 高齢者や障害者の社会参加を支える仕組みづくり | 災害時における要配慮者の安全対策 | わかりやすく利用しやすい情報提供の充実 | 「福祉のまちづくり」の普及・啓発の充実 | 当事者の意見を反映するための仕組みづくり | 学校におけるユニバーサルデザイン教育等の推進 | 地域住民を対象にしたユニバーサルデザインの推進 | 民間事業者による従業員を対象とした接客対応向上のための研修の実施 | その他 | 無回答 |
|----------------------------|------------------|------------------|--------|-------|----------|-----------------------|---------------------|------------------------|------------------|---------------------|---------------------|----------------------|------------------------|-------------------------|----------------------------------|-----|-----|
| 総数 | 100.0 (5,944) | 67.3 | 34.1 | 67.4 | 18.7 | 29.4 | 32.7 | 15.4 | 46.7 | 26.6 | 11.3 | 16.2 | 37.7 | 5.0 | 10.2 | 2.2 | 2.8 |
| 何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする | 100.0 (282) | 58.5 | 34.4 | 63.5 | 14.2 | 20.2 | 37.6 | 18.8 | 46.8 | 21.3 | 14.5 | 15.2 | 25.5 | 3.5 | 9.6 | 5.7 | 6.0 |
| 何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要としない | 100.0 (5,629) | 67.8 | 34.1 | 67.6 | 19.0 | 29.8 | 32.5 | 15.3 | 46.7 | 26.8 | 11.2 | 16.3 | 38.4 | 5.1 | 10.3 | 2.0 | 2.6 |